

No. 7

ニチメン東京社友会

〒107-8655 東京都港区赤坂2-14-7 双日(株)内 17F
URL <http://nmtkshayukai.hp.infoseek.co.jp/>
E-mail menkwa@sojitz.com

【目 次】

2010年度・新年賀詞交歓会のご案内；1月18日(月) 12：00～		2
1. 2009年度総会・懇親会		
① 2009年度社友会総会 挨拶	会長 丸山 修作	3
② 来賓ご挨拶	双日(株)会長 土橋 昭夫	4
③ 来賓ご挨拶	大阪社友会会長 田淵 弘通	5
④ 総会・懇親会報告	浜口 信恭	6
⑤ 2008年度事業・収支報告& 2009年度事業計画・収支予算		8
2. 会員動向		
① 新規加入者		10
② 2010年度長寿表彰		10
③ 会員名簿訂正		10
④ 訃報		11
3. 大阪社友会ニュース	編集部	12
4. OB会、同好会便り		
① ニチメン機友会	古家 章	13
② ニチメン東京化工OB会	吉木 健	14
③ ニチメン慶応会	岡島 岩男	15
④ 一木会、(木材部門OB会)	石川 博保	16
⑤ 第11回ニチメンテーマズ会報告	沖本 達也	18
⑥ NMTC会、(ゴルフの会)	塚本 幸雄	19
⑦ いろは句会	宇治田 薫	21
5. 会員投稿文		
① 『今が好き』	大山 弘雄	22
② ウイーン我が夢の街	岩下 恒則	27
③ 『書評』二編	渋谷 義	28
④ アジアと日本	山邑 陽一	30
⑤ 今2009年ベトナム行脚、他の報告	久澤 克己	32
⑥ 想いでSanforize	浜地 道雄	35
⑦ 勉強好きに変身	岡島 岩男	36
6. 追悼文		
① 故都築基夫さんを偲ぶ	窪田 厚三	39
7. 生活情報、医療コーディネーターのご紹介	栗田 久彌	40
8. 社友会役員・世話人一覧表および東京社友会 連絡先		42
9. 双日(株)社友会連絡窓口		43
10. 『年会費支払お願い』		43
11. 編集後記		44

2010年度新年賀詞交歓会開催のご案内

恒例の新年賀詞交歓会を、下記要領にて開催いたします。

皆様と一堂に会して初春を寿ぎたいと存じます、万障お繰り合わせの上ご参加頂きますようお願い申し上げます。

記

開 催 日 : 2010年 1月18日(月曜日) 12:00～(11:30開場)

会 場 : 双日(株) 本社 西館7階 大会議室

アクセス : 赤坂サカス向かい、赤坂新国際ビル西館 7階
東京メトロ千代田線赤坂駅下車⑤番出口すぐ右

会 費 : 無 料

特記事項 : 一軽食及び、お飲物を用意致しております。
一双日(株)首脳部のご参加も予定されています。
一長寿の表彰、米寿7名、白寿の該当者なし。
一非会員の方で入会ご希望の方は受付にて手続きが出来ます。
一尚、当日会場にて、双日(株)の自社カレンダー、及び大阪社友会の『会報No. 5』と『会員名簿』を贈呈いたしますが、
何れも、数に限りがありますので、先着順にさせていただきます。

双日(株)内、社友会担当窓口 : 人事総務部部長 青木 聡弥
03-5520-4088



2009年度社友会総会 挨拶

会 長 丸 山 修 作



皆さん、こんにちは。

本日は、ニチメン東京社友会の総会に、ご多忙のところ多数の会員の方にお見え頂き、深く感謝いたします。

今総会も数えて4回目、東京社友会が発足して丸3年が経ちました。又、ニチメンが日商岩井さんと一緒になり、双日株式会社になって足かけ7年、時の流れの速さを感じております。

と同時に、私どもニチメンに入社して、緊張し、感動し、充実感を感じ、時に挫折を味わいつつ感じつつ、その半生を託して過ごしてきたニチメンは、時の流れの彼方にその影を薄くしつつあります。

しかし、このようなことは、激動する経済界に於いては当然のことであり、ただ、我々ニチメンOBとしては、青春の滾る血を弥が上にも燃やし、日々の業務に没頭していたあの日あの頃の思い出を、恩讐を超えて語り合い、明日の活力の資とする場に、是非このニチメンの名を冠した社友会を出来るだけ長く存続させたい、と願っております。

一方、双日株式会社は、当初は当然のことながら名前に馴染みがなく、名前を聞いても、はてどこの会社だったかなと一瞬戸惑うようなこともありました。今やニチメン社友会の歴とした大スポンサーである、と共に我がニチメンの後身でもあります、無関心ではられません。

最近は大日の名が新聞紙上を賑わす頻度が多くなりました。先達でも、マレーシア向けステンレス鋼工場の納入計画が報じられておりました。設備や資源開発への投資、また海外企業との合併などに活発な動きを見せております。

先日の株主総会では、全日空ホテルの広い会場の中に、溢れんばかりの株主が参集し、大変活発な意見を出しておりました。加瀬社長の水際立った議長采配には、改めて感服を致しました。と同時に、株主の意見の全てが大変建設的なものであり、双日がいかに株主から期待され信頼されておるか、ということを物語っている、と感じました。

ただ、もう少し株価を上げてくれというのが、私を含めての株主全ての本音ではなかったかと思います。

我々ニチメン社友会としても、双日の一層の活躍と限らない前進と発展に、精神的にもバックアップし得る存在であることを強く念願しております。

本日は、先程のご紹介にありました通り、土橋会長、加瀬社長はじめ、役員・幹部の方々のご参席を得ております。お忙しいところ、大変有難うございました。また、大阪からは、ニチメン大阪社友会会長の田淵さんのご出席も得ております。

また、本日は特別番組として、機械部OBの本田務さんの主宰するハワイアンバンドの演奏があります。

たまには変ったことをやれ、という会員のご要望に応え、世話人の高木亨一君が奔走しアレンジしてくれたものであります。株安で中々ハワイに行くチャンスがありませんが、ハワイに行ったような感じを持って、ひと時、お楽しみ頂ければ幸いです。

本日はご多忙の中、又、一段と暑くなったこの日に多数の皆さまのご参集を得て、心から御礼申し上げます。以上で終わります。

来 賓 ご 挨 拶

(2009年7月13日:如水会館)

双日(株)会長 土 橋 昭 夫



皆様こんにちは、双日の土橋でございます。

本日は梅雨の晴れ間の大変暑い中、190名近くのお元気なOBの皆様方がお集まりになられまして、誠に嬉しく思っております。平素は双日の経営に対しまして、温かいご支援ご声援を頂戴致しまして、厚く御礼を申し上げます。

先月の23日、双日の第6回定時株主総会が催されましたが、本日まで出席の何名かの方のお顔もお見受けしました。当社の株主構成は、個人株主の方が非常に多くなってきており、年々株主総会へご出席頂く株主様も多くなり、今年は1,600名を超える株主様にご出席頂きました。株主総会後の株主懇談会にも大勢の株主様が御見えになり、我々経営陣に対する叱咤激励を受けたわけでございます。概ね我々経営陣に対する応援という発言ではなかったかと私自身感じておりますが、改めて責任の重さを感じた次第です。

目下の経済状況でございますが、様々な経済指標を見ますと経済は底を脱して回復の兆しを伺える数値が出ていることも事実であります。また政府が発表した、6月の月例経済報告におきまして、『景気は底打ちした』という景気底打ち宣言も出されております。確かにアジアを中心として輸出が持ち直してきており、また在庫調整も進み生産の落ち込みも回復してきております。しかしながら、足元の経済情勢を見ますと、まだ雇用情勢はよろしくなく、したがって個人消費も落ち込んでおり、更に各企業の直近の決算は最悪の状況である等々、まだまだ先行き楽観を許さない状況ではなかろうかと思っております。

このような状況ではありますが、当社は前期の中期経営計画におきまして、経営基盤・財務体質の強化がほぼ完了致しました。おかげさまで、この時期一番大事であります、手元流動性につきましては、4,200億円の現預金を確保しております。また、昨年9月に主要行と合意致しました1,000億円のコミットメントラインも手つかずの状況であり、このあたりの心配はないと思っております。経済の状況が悪いのは日本だけではなく、全世界でございます。こういう時期は、ある意味では商社にとって大きなチャンスでもあり、現に私どものところには色々なところから、新しいビジネスなど沢山の話しが持ち込まれてきております。このような時期でございますが、私どもは仕事を厳選し、慎重なうえにも積極的に投資をしていく所存でございます。

先般、発表致しました中期経営計画「Shine2011」において、今年度の投資計画は約700億円予定しております。

前期末までの3カ年計画では、この3月末で600億円の連結当期純利益をもくろんでいました。あまり外的な要因のせいにはしたくはありませんが、我々の想像を絶するようリーマン・ショックの影響もあり、残念ながら190億円と大幅な未達で終わりました。また、配当につきましても、中間で4円50銭、通期で9円の配当を予定しておりましたが、通期で5円50銭と大幅な減配となり、誠に申し訳なく、お詫びを申し上げます。

このような状況で、新たな中期経営計画「Shine2011」を作成致しました。

3カ年計画ですので、本来ですと3年間の数値をもってお示しするのが筋でございますが、現在は状況を非常に見極め難いということもあり、まずは初年度のみ定量目標、当期純利益200億円を発表させて頂きました。2年目・3年目の数値については、今年度の状況、経済情勢等を見極め、今期中に定量数値もお示

(了)

第四回ニチメン東京社友会総会・懇親会開催報告

浜 口 信 恭

第四回総会・懇親会は7月13日（月）如水会館で開催されました。
当日の出席者は、183名の多くを数え、大盛会と成りました。

さて、本題の第1部総会は、倉又世話人代表の議事進行にて始まり、丸山会長の挨拶に引き続き、沖本世話人による2008年度事業報告・収支報告がなされ、それをフォローして、橋本監事から監査報告がなされました。そのあと2009年度事業計画・収支計画が披露され出席者の拍手により承認されました。

最後に来賓として双日株式会社の土橋会長のご挨拶がありました。ご多忙の中を、双日より会長のほか加瀬社長以下13名の関係者のご出席をいただきました。

第2部の懇親会はこれまでの長谷川世話人にかわり、浜口世話人が初めての司会を務めて進行しました。今回は大阪社友会から田淵会長のご出席があり、冒頭ご挨拶をいただき、続いて岩田副会長の乾杯の音頭、また新しい試みとしてOBの本田 務さん率いるハワイアンバンドの演奏を取り入れ、想いでのシチリア、カイマナヒラ、アロハオエなど10曲を披露していただきました。ギター、ベース、ウクレレ等の楽器演奏にあわせ、女性陣によるフラダンスの披露もあり、会場を大いに盛り上げていただきました。

出席者の中には福岡、神戸、大阪からのご参加もあり、懐かしい仲間同士の歓談の輪があちこちでできていました。中締めは河西良治副会長にお願いしましたが、多くの方々が、いつものように立ち去りがたい雰囲気のなか、再会を約して帰途につかれました。

初めてのアンケートもとらせていただきました。その結果多くの方が、総会・懇親会あわせ運営の仕方、アトラクションの採用などに賛意を表していただきました。また、双日トラベルから旅行カバン2個を寄贈いただき、アンケート提出者の中から、抽選にて、2名に贈呈しました。

今回の総会・懇親会が滞りなく、お開きになった事は関係者一同のご尽力のおかげであります。

特に、受付業務等にご協力を得ました、利根川慎治、佐藤統次、今田時男、滑川和子、垣田佐代子、今井恵子、木津奈緒子、増川恵子の皆さんには厚くお礼を申し上げます

尚、最後に世話人会としてのお願いですが、ご出席のご返事にも関わらず、当日無断欠席（所謂ドタキャン）がありますが、これは会の円滑なる運営に支障をきたします。

夫々、ご事情あってのこととは存じますが、出来るだけ前広にご連絡ください。

以 上



総会・懇親会 出席者リスト (2009年7月13日開催)

【社友会会員】

あ 青 木 聡 弥(*)
 2 浅 井 正 彦
 3 浅 子 豊 治
 4 芦 村 八 郎
 5 甘 利 廣
 6 荒 木 武 雄
 7 新 崎 盛 晨
 8 幾 島 清 格
 9 池 田 謙 一
 10 石 澤 伸 夫
 11 泉 川 元 久
 12 市 藤 安 雄
 13 伊 田 時 男(*)
 14 今 居 宏 一
 15 岩 田 昭 二
 16 岩 植 木 弘 政
 17 上 野 通 明
 18 漆 崎 隆 司
 19 遠 藤 隆 雄
 20 大久保 海 生
 21 大 崎 隆 三
 22 大 塚 静 子
 23 大 野 久 生
 24 大 羽 陽 一 郎
 25 大 平 栗 雄
 26 大 森 啓 作
 27 大 山 弘 雄
 28 岡 島 岩 男
 29 岡 田 茂 彦
 30 沖 田 隆 也
 31 沖 本 達 久
 32 小 田 有 子
 33 小 垣 田 佐 代 子(*)
 か 河 西 郁 夫
 35 河 西 良 治
 36 勝 田 泰 司
 37 金 沢 英 雄
 38 上 條 達 雄
 39 川 西 勲 巳
 40 川 畑 正 三
 41 菊 池 省 徳
 42 喜多嶋 雄 夫
 43 北 村 俊 夫
 44 木 津 奈 緒 子(*)
 45 金 城 弘 明
 46 窪 田 厚 三
 47 久 保 貞 二
 48 倉 又 則 夫
 49 倉 持 次 雄

51 栗 田 久 彌
 52 小 林 齊 之 介
 53 小 林 靖 幸
 さ 三 枝 伸
 55 五 月 女 穰
 56 坂 井 啓 治
 57 坂 井 良 司
 58 桜 井 潤 一
 59 笹 原 弘
 60 佐 藤 悦 三
 61 佐 藤 智 朗
 62 佐 藤 三 雄
 63 佐 藤 鐵 次
 64 佐 藤 統 次
 65 澤 井 修 次 郎
 66 三 分 一 克 美
 67 洪 谷 義
 68 清 水 武 人
 69 新 藤 喜 与 次
 70 菅 沼 利 太 郎
 71 杉 浦 幸 雄
 72 杉 本 佳 久
 73 祐 定 郁 夫
 74 須 藤 忠 昭
 75 陶 山 晃 徳
 た 大 工 原 正 一
 77 高 木 亨 一
 78 高 木 恒 久
 79 高 瀬 允 宏
 80 高 瀬 善 男
 81 高 田 秀 子
 82 高 野 泰 雄
 83 高 間 宏 治
 84 田 尻 眞 啓
 85 田 中 久 彦
 86 田 中 偉 堯
 87 谷 昌 興
 88 田 村 順 子
 89 塚 本 幸 雄
 90 津 田 賢 一 郎
 91 利 根 川 慎 治(*)
 92 豊 間 根 政 行
 な 永 井 存
 94 中 川 十 郎
 95 中 野 峻 吉
 96 中 原 正 紀
 97 名 島 憲 一 郎
 98 滑 川 和 子(*)
 99 成 見 和 男
 100 南 部 捷 郎
 101 西 川 周

102 西 田 昇
 103 西 村 照 男
 104 西 村 弘
 105 蟻 川 親 秀
 106 庭 野 松 三
 107 野 本 定 男
 は 羽 島 昭 一
 109 橋 本 春 彦
 110 長 谷 川 洋
 111 花 澤 和 郎
 112 埴 生 栄 勇
 113 浜 口 信 恭
 114 林 博 之
 115 林 正 弘
 116 林 義 人
 117 久 澤 克 己
 118 久 武 雅 志
 119 平 尾 龍 介
 120 廣 岡 幹 雄
 121 廣 田 雄 太 郎
 122 廣 本 昌 也
 123 深 尾 孝 恒
 124 福 島 有 直
 125 福 富 明 純
 126 福 本 匡 泰
 127 藤 野 三 章
 128 古 家 務
 129 本 田 登 志 雄
 130 本 間 洋 生
 ま 牧 俊 次
 132 榊 山 憲 一
 133 松 尾 利 夫
 134 松 崎 忠 夫
 135 松 本 靖 史
 136 松 本 靖 史
 137 丸 山 修 作
 138 丸 山 泰 三
 139 三 浦 甲 蔵
 140 三 嶋 敏 夫
 141 水 庫 博 夫
 142 水 野 英 幸
 143 溝 江 博 三
 144 宮 浦 博
 145 宮 田 信 雄
 146 宮 本 正 博
 147 村 井 靖 武
 148 村 岡 龍 馬
 149 村 松 寶 夫
 150 望 月 昌 徳
 や 矢 島 孝
 152 山 岸 正 雄

153 山 口 一 光
 154 山 口 富 治
 155 山 口 富 美 子
 156 山 口 良 孝
 157 山 邑 陽 一
 158 山 本 浩 一 郎
 159 与 儀 治
 160 吉 海 秀 造
 161 吉 川 浩 健
 162 吉 木 三 成
 163 吉 田 敬 三
 164 吉 田 俊 成
 165 吉 弘 ち よ
 166 吉 本 邦 晴
 167 立 古 健 策
 168 渡 利 陽

【支援・協力者】

169 今 井 恵 子
 170 増 川 恵 子
 (非会員)

【大阪社友会】

171 田 淵 弘 通

【双日役員】

172 土 橋 昭 夫
 173 加 瀬 豊
 174 佐 藤 洋 二
 175 茂 木 良 夫
 176 花 井 正 志
 177 新 藤 孝 尚
 178 塚 田 尚

【双日関係者】

179 松 木 幸 夫
 180 瀬 下 猛
 181 神 子 浩 二
 182 田 中 康 愛
 183 平 井 龍 太郎

(合計 183名)

(*)=受付支援等に協力頂いた
 会員

2008年度事業報告及び収支報告

(期間：2008年07月01日～2009年06月30日)

ニチメン東京社友会

I. 事業報告

	実績 (千円)	予算 (千円)
第3回総会・懇親会開催 (2008年7月22日)	727	780
会報・会員名簿発行	983	840
ホームページの運用	499	200
第2回新年会開催 (2009年01月19日)	555	560
慶弔行事	339	350

II. 収支報告

A) 収入の部

	実績 (千円)	予算 (千円)
1. 会 費	1,845	1,950
2. 双日支援金	1,800	1,800
3. 寄 付	39	0
4. そ の 他	88	100
	3,772	3,850

B) 支出の部

1. 総会・懇親会開催費用	727	780
2. 新年会開催費用	555	560
3. 会報・会員名簿の発行	983	840
4. ホームページの改良・運用	499	200
5. 会 員 慶 弔	339	350
6. 世話人会運営費用	325	440
7. 事務所運営費用	690	650
8. 予 備 費		10
	4,118	3,830

C) 差引当期繰越金	-346	20
------------	------	----

D) 前 期 繰 越 金	2,406	2,406
--------------	-------	-------

E) 当期末繰越金	2,060	2,426
-----------	-------	-------

2009年度事業計画及び収支予算

(期間：2009年07月01日～2010年06月30日)

ニチメン東京社友会

I. 事業計画

	予算 (千円)	前期実績 (千円)
第4回総会・懇親会開催	740	727
会報・会員名簿発行	850	983
ホームページの維持・運用	300	499
第3回新年会開催	590	555
慶弔行事	350	339

II. 収支予算

A) 収入の部

	当期予算案 (千円)	前期実績 (千円)
1. 会費	1,800	1,842
2. 双日支援金	1,800	1,800
3. 寄付		39
4. その他	100	88
	3,700	3,772

B) 支出の部

1. 総会・懇親会開催費用	740	727
2. 新年会開催費用	590	555
3. 会報・会員名簿の発行	850	983
4. ホームページの維持・運用	300	499
5. 会員慶弔	350	339
6. 世話人会運営費用	350	325
7. 事務所運営費用	750	690
8. 予備費	170	0
	4,100	4,118

C) 差引当期繰越金	-400	-346
------------	------	------

D) 前期繰越金	2,060	2,406
----------	-------	-------

E) 当期末繰越金	1,660	2,060
-----------	-------	-------

訃 報

2009年10月31日現在

ニチメン東京社友会

氏 名		死亡年月日	享 年
都 築 基 夫	機 械	2009年05月06日	75歳
藤 岡 浩（＊）	財 務	2009年06月17日	61歳
籠 波 俊 之	機 械	2009年08月21日	61歳
露 木 進	運輸保険	2009年09月08日	81歳

ニチメン大阪社友会

氏 名		死亡年月日	享 年
大 西 延 夫	織 維	2009年05月10日	77歳
岡 田 靖 子	織 維	2009年06月08日	69歳
斉 藤 利一郎（＊）	織 維	2009年06月09日	83歳
川 勝 武 夫	社 長 室	2009年07月09日	69歳
首 藤 信一郎	織 維	2009年08月08日	81歳
大 貫 進（＊）	織 維	2009年08月24日	74歳
塩 田 猛	機 械	2009年09月20日	72歳
川 内 義 雄	織 維	2009年09月21日	84歳

（＊）は非会員

ご冥福を、お祈りいたします。合掌



nmosnmos 大阪社友会ニュース nmosnmos

編 集 部

2009年9月9日、第三回大阪社友会総会・懇親会が、あの懐かしの中之島旧ニチメンビル（現大阪中之島ビル）にて開催。

総会は、11時30分、林靖副会長の司会により始まり、先ずこの一年の物故者に黙祷を捧げ、次いで本年度新役員候補26名が議場の承認を得て、今後二年間の新体制がスタート。再任された田淵弘通会長の挨拶に続き、議事は滞りなく進み承認可決された。

この後、御来賓の土橋昭夫双日㈱代表取締役会長のご挨拶を頂いた。最後に、東京社友会丸山修作会長より来賓ご挨拶がありました。

12:00よりの懇親会は、木村幸史副会長の司会で始まり、田中義巳元社長・会長の御元気な乾杯の御発声で宴は始まる。当日の出席者総数は来賓10名を含む155名。14:00藤崎恭典副会長の中締めで宴はお開きとなった。

総会・懇親会に於ける 丸山会長挨拶

みなさま、今日は。東京社友会から参りました丸山です。

本日は第三回ですか、ニチメン大阪社友会の総会にお招きいただき、有難うございます。

去る7月の13日、東京で行われました東京社友会総会には、大阪より田淵会長にご出席を頂きまして、いよいよ東西ニチメンの社友会の交流が始まった、という感じが致します。これを機会に両者の絆を強くして行くことを期待しているところでございます。

私事になりますが、わたくし在职約40年、その間一度も大阪勤務はございません。

従いまして、大阪への思いというか、大分薄いのでございますが、大阪へ参りますと改めて、ここがニチメン発祥の地である、という感を強く致します。

今日そこにお見えになっておる山邑陽一さんの著書「総合商社」に、1892年、大阪の紡績会社4社と綿花商らが当時の外国商館の横暴な綿花取引に対抗し、原料綿花確保のため、大阪に日本綿花株式会社を設立した、と記されております。

ニチメンは無くなりましたが、私たちのニチメンに働いたという誇りは永遠に消えることはないと思います。ニチメンの名前を末長く社友会に残しておきたいと思うのは私だけの願いではないと思います。

昨日、大阪駅よりタクシーでホテルへ参りました。もう、思わず「大阪、懐かしいなあ」こう申しましたら、初老の運転手さんが「大阪にお住みでしたか？」と。「イヤ、大阪に本社のあるニチメンの東京に永らく勤務しておりました」「ニチメンさんですか？それはそれは、そうですかニチメンさんですか！」まア、本当に嬉しかったです。

これこそ、ニチメンマンにとって、ジ・オオサカ、という感じが致しました。

東西社友会の一層の発展と、本日まで出席の皆さまのご支援、ご健勝を念願して、挨拶に代えさせていただきます。どうも、ありがとうございました。

ニチメン機友会(機械部門OB会)開催

古 家 章

2009年10月24日(土)八重洲富士屋ホテル櫻(西)の間において、11時半開場、正午12時より開催。第4回目を迎える若い会のため、機械全部門の集合には未だ至っていない。当時の部門社員数からみると一抹の淋しさも禁じえないものの、昨年比約20%増になる総勢68名(男性61名、女性7名)の参加をいただいた。男性より今や体力ありと思われる女性の参加者が少ないのは気掛かりなるも、それをカバーして余りあるのは男性群の暇の増大、体力増強の成果の現れかと納得す。

冒頭、この1年間で残念ながら亡くなられたメンバー3名の方々への黙祷を捧げた後、会は始まった。本会会長 上條達雄、遠路お越しいただいた野村喜久雄、東南アジアを場として現在もご活躍中の黒木俊二郎の各氏より、近況を含めご挨拶をいただいた。

その後、ニチメン東京社友会会長 丸山修作氏の乾杯音頭により、待ちに待った宴が始まった。ご挨拶いただいた方々のスピーチは過去・未来夫々に感銘と示唆を与えるものであった。

潤滑油も入り、口も喉も滑らかになった頃、石澤謙一氏による“ボケない小唄”が披露された。自由参加による唱人も加わり、手拍子も盛んに大変賑やかなステージとなった。この“ボケない小唄”の歌詞は誠に味わい深く、この会への半永久的参加が、歌詞に込められた「戒めと奨励」の実行如何によるものと痛く感じた次第。

今回の当番である産業機械部門を代表して、倉又則夫氏から故事を交えたご挨拶とともに中締めがあり、三々五々散っていった。

なお、ニチメンマンドリンクラブの面々による開宴から散会までの長時間に亘るBGM演奏、さらに女性4名による社歌のコーラスなど、本会の盛り上げに御尽力いただいた引率者 与儀治氏に心より感謝す。
(了)



平成21年10月24日 第4回ニチメン機友会 於 八重洲富士屋ホテル

ニチメン東京化工OB会

<第19回懇親会>

幹事 吉 木 健

通称「三金会」（毎年10月の第3金曜日に開催する会の意）すなわちニチメン東京化工OB会は、今年も恒例に則り10月16日（第3金曜日）に、会場を諸般の事情から当初より常用会場として使用してきた日本橋茅場町の鉄鋼会館から交通至便の日本橋交差点横のレストラン東洋に移して開催しました。

参加人数は昨年と同数の総勢44名（男性40名、女性4名）でしたが、会場が鉄鋼会館よりややコンパクトであったこともあって、それ丈にお互いの会話とスキンシップで、会場は異常な盛り上がりを見せました。

冒頭の島崎会長のご挨拶は全員静粛な面持ちで拝聴したものの、新入会員や久方振りの参加者の挨拶やスピーチに入る頃になると、折角の話も大いに盛り上がった個々人の会話で掻き消される程の賑わいで、会員相互の懇親を求める程の強さを実感させられました。

一方会員の高齢化が年々進む中で、年一度とはいえ、この懇親会を通じ自らへの精神的、肉体的活性化のプラス効果が大いに有ったと考えさせられた一夜でした。



島 崎 会 長 挨 拶

今回は双日グループ幹部の石原敬資さん（双日インフィニティー 社長）が、出張先予定のご都合で誠に残念ながら急遽欠席となりましたが、今回出席された方々の中には未だ現役として活躍している方も数多く、これら現役の皆さんとの交流を通じて、これからも心身共に前向きに且つ自らの若返りとリフレッシュ化を目指してゆきたいものと考えます。

宴たけなわとなり、アルコールも料理も十分召し上がって貰った処で、栗田幹事よりの、「今回始めて使用した当会場は如何でしたか？」との問いに対して、「料理もうまいしなかなかよろしい」との声が多く出ましたので、同幹事より「これからもレストラン東洋を使用する事、来年の開催日は10月15日（金）である事」を宣言した後、成見さんの中締めで恙無く懇親会は終了しました。

☆ 参加者名（アイウエオ順、敬称略）

青木 和正	浅井 正彦	足立 宏	浅子 豊治	池田 格	五十畑 利枝
植木 弘政	大野 久生	大村 健太郎	沖田 隆彦	小野 寛	笠原 聖子
勝田 泰司	清田 郁夫	熊谷 信弘	栗田 久彌	古藤 彰三	近藤 正一
柴田 実	島崎 京一	須藤 忠昭	外林 俊浩	竹内 可能	竹内 雄一
橘 行雄	玉置 宣宏	丹下 薫	栃木 良雄	中尾 弘久	滑川 和子
成見 和男	西川 洋	西村 照男	野中 忠雄	浜田 早苗	林 悟
藤本 博史	牧 洋生	水野 英幸	箕作 武彦	山邑 陽一	横山 正巳
吉木 健	吉田 孝生				

第二回ニチメン慶應会 報告

岡 島 岩 男

慶應義塾大学の150周年を機に昨年ニチメン慶應会が初めて開催されましたが、今回はその第二回目となります。6月20日12時、15名の慶應ボーイが八重洲富士屋ホテルに集合しました。

牧世話人代表の司会で始まり、先ず大野会長からのご挨拶いただき、次いで浜地さんにフレッツフレッツ慶応と音頭をとっていただきました。浜地さんは慶応の応援団部に所属しておられましたので、その大音声は神宮球場も思い出させてくれるすばらしいものでした。さらに丸山さんの音頭で乾杯、和やかに愉快に楽しく会は進行してゆきました。

今回は初参加の初又さんからゴルフ三昧の日々を過ごしておられるとの近況報告がなされました。監事の小野さんからはご挨拶と共に闘病のご経験のお話をいただきました。現在はすっかりお元気になられておられますが、一同高齢者の身として神妙に耳を傾けました。堀部さん、金沢さんからも健康管理についての経験談をお話いただき健康の重要性をさらに改めて認識させられた次第でした。また菅沼さんからは慶応義塾150周年式典及び卒業50年記念招待に参加されたお話をさせていただきました。

ハイライトは全員による塾歌やいろいろな応援歌の合唱で、特に今回は金城さんにご持参いただいた塾歌＋応援歌のDVDのおかげで、臨場感あふれる中での大合唱となり大いに盛り上がりしました。

最後は小野さんの一本締めで気分良く会を終了、またその場で小野さんには会計監査もしていただきました。ニチメンの監査役を勤められておられただけに、所定の作法どおり実にきちんと監査していただくことができました。

出席者のお名前は下記の通りです。(敬称略、順不同)

大野 久生	丸山 修作	堀部 義数	金沢 英雄	小野 寛
牧 洋生	菅沼利太郎	松本 理則	金城 弘明	初又 惇夫
高木 亨一	岡島 岩男	笹原 弘	浜地 道雄	田所 忠彦



東京木材部OB会 通称『一木会』紹介

石 川 博 保

ニチメンが三田ビルにいたころ、25Fで、木材本部長主催の、木材OB会 毎年開催。

OBが全国から集り（勿論首都圏在住OBが大部分）、¥3000の会費で何回か開催。

日商岩井との統合が決定し、2003年12月4日 最後のOB会にて解散を決定。

2004年1月 会社と離れて、ニチメン木材OB会が新発足。会長が伊藤安雄さん、幹事に前田征雄さん、石川が選出される。

その後、2006年7月、ニチメン東京社友会 発足。翌年、大阪社友会も発足。

これで、ニチメンOB全体の情報も社友会通じて取得できるゆえ、木材OB会も使命完了ということで、2008年8月大阪OB会と打ち合わせ、ニチメン木材OB会は解散。

上記のニチメン木材OB会とは、直接は関係なく、1999年の5月頃から、首都圏在住のOBが個人的に何人か集まって、雑談、麻雀、囲碁など楽しみ始めた。私が最初に参加したのは、1999年6月か7月かの第一木曜日。

その後、大久保さんの浦和中友人にヤクルト専務がおられて、ヤクルト本社ビル地下の日本料理『味里』の奥に個人的に会長が設けていた、カラオケ、BSテレビ設備の部屋（22人限度）を安く利用可能となる。

その間、銀座のライオンビアホールも数回使ったが、『味里』に定着。現在まで10年、100回以上連綿と続いている。

会長も会則もなく、石川がメールで前日までに毎回出席者を確認する集まり故、正式なOB会ではない。

集金は太田さん、小島さんにヘルプ頂いている。

今後も卒業者で参加希望の方は、石川または木材OBの方に知らせて下さい。

2007年までは、第一木曜日、例会。2008年以降は、隔月の年6回となる。正月はニチメン時代から忘年会で行きつけた、京橋 美々卯。幹事の石川が、昼に間に合うよう11:20amに『味里』に着くように家を出るが、最近では、既に7-8名は集まっておられて、BS大リーグTV観戦。皆さん熱心に参加。

その後は、ビールをかなり大量に飲む。本来飲んじゃいけない人も飲んでる。

喧々囂々うるさく気ままに話がはずみ、約2時間でお開き。

あとはマージャン、囲碁、銀座画廊めぐりなどそれぞれ楽しむ。

私は、新橋場所を夕方まで4人で毎回楽しむが、先日の11/5（木）若手鎗木さん初参加で、2卓成立は数年ぶり。

●一木会ゴルフ会が4月～11月（真夏さけて）、年間6回開催。

今年最終回は11/19（木）富士国際GC 3組12名で終了します。

優勝者が次回幹事、3-4組 元気に楽しんでいます。

●一木会例会にご出席の皆さんは、以下の通り。

稲垣基直、待山卓哉、四方正汎、三尾川常松、中山温亘、安森敏弘

（上記6氏は上京時参加）

青井勝、○青木浩、○石川博保、○伊藤安雄、○今井明、○大久保海生、尾形安法、○奥村睦夫、太田昌秀、○大山弘雄、○小田有久、柿木豊、鎌倉幸一、○川畑正巳、○川端勝四郎、鎗木順治郎、小島紀彦、小林俊三、佐藤守、○白石哲也、杉野智彦、菅野昌熾、鈴木松男、曾我宏司、○高尾勝、武田尚憲、○田畑実、○内藤謙二、○埴生榮勇、○廣田雄太郎、○深尾孝、○前田征雄、○松本理則、○山口一光、吉野昭一、脇田武志。

※ 堀井虎雄さん、梶浦謙晴さんは惜しくも早世された。（○は東京社友会会員）



今年の新年会 2009年1月8日(木) (奥村さん撮影)

[illegible]

保 養 所 の ご 案 内

このたび、双日健康保険組合が保養所の管理運営を委託しております株式会社ビスタリゾートとの間で、別冊「VISTA HOTELS GUIDE 2008」に記載されております直営施設につきまして、ニチメン社友会の会員も利用できるようになりました。

申込みは双日健康保険組合のHP (<http://www.sojitz-kenpo.com/index.html>) のビスタリゾート直営施設にある申請書)、もしくは、別紙FAX申込書に必要事項を記入のうえ、(株)ビスタリゾートまで直接申込をお願いします。

電話又はFAXで申し込みの際には、**会員番号101-0002 双日健康保険組合OB**と必ずお伝えください。

尚、別冊掲載施設の内、「メープルコート軽井沢（旧ニチメン軽井沢保養所）」と「ラフィーネ伊東」は双日健保所有、「御殿場 遊彩の樹」は双日所有ですので、下記の特別料金が適用されますが、その他の施設は双日健保以外の他社健保の所有ですので、利用料金は別冊記載の料金となります。

		軽井沢	伊東	御殿場
平日プラン	一泊二食	6,090円	6,090円	6,000円
休前日プラン（年末年始含）	同	7,140円	7,140円	7,000－8,000円

予約先：ビスタリゾート予約センター
TEL：03-3219-1331
FAX：03-3219-1333



第11回ニチメンチームズ会報告

沖 本 達 也

2009年10月16日（金）夕刻より第11回目を迎えたニチメンチームズ会を恒例の銀座7丁目「高松」で開催、22名が集まりました。ニチメンチームズ会の来歴に関しましてはニチメン東京社友会会報第1号に松田（實）会長より紹介されておりますが、当会が網羅する会員は1950年代のロンドン店第一世代から2000年代の若手（相対的若手）まで幅広く、半世紀に亘る戦後ニチメン・ロンドン店の歴史そのものです。同時に当会の他のOB会と違う特色は夫人同伴を歓迎している点にあります。さて、今回は残念ながらニチメン化工OB会と重なった事情もあり、参加者は30-35名参加する例年と比較して22名と少な目でしたが、2007年初にご逝去された当会の長老メンバーであった雄谷さんの奥様を初め4名のご夫人の参加が華を添えていました。会は珍しく短い松田会長のご挨拶よりスタートし河西（良治）さんの乾杯の音頭で懇談に移りました。懇談途中で久しぶりに参加された池田（照幸）さん、小川（宇士雄）さんの近況報告に、廣岡さんの最近の欧州事情についての小話、漆崎さんのボランティア活動の話とアルコールに料理と各スピーチを肴に約2時間があっという間に過ぎてしまった印象でした。最後に渡辺（重幸）さんの音頭で一本締め、又、来年元気に参加することをお互いに申し合わせ散会となりました。



今回参加されたメンバー

- | | | | |
|-------------|--------|--------|-------------|
| *新崎 盛晨 | *池田 照幸 | *泉 伸夫 | *漆崎 隆司 |
| *大村 善勇 | *岡島 岩男 | *小川宇士雄 | *雄谷 夫人 |
| *河西 良治（同夫人） | *櫻井 潤一 | *鈴木 淳一 | *田尻 眞啓（同夫人） |
| *中谷 勝 | *廣岡 幹雄 | *古澤 陽一 | *前田 征雄 |
| *松田 實（同夫人） | *渡辺 重幸 | *沖本 達也 | |

（あいうえ順、敬称略）

以 上



NMTC会のご紹介

塚 本 幸 雄

ニチメン東京社友会の「会報」誌上では本部単位のOB会や囲碁、俳句、更にゴルフなどの同好会で皆さんが活発に活動されている模様が紹介されていますが、私どももNMTC会として仲間の皆さんと長年ゴルフを楽しんでいることをご紹介します。

NMTC会とは「ニチメン東京カントリー会」の略です。

今から十数年前から都内や横浜、小田急沿線に住むニチメンOBの皆さんが「東京カントリー倶楽部」に入会し個別にプレーをしていましたが、その後次第にOBのヴィジターも増えてきて仲間も10名を超えるようになりました。

この状況の中で、折角の機会でもあり組織的にOB相互間の親睦と交流を図ろうではないかとの機運も高まってきたのです。

平成10年8月には鉄輪出身の菅谷さんの音頭により第一回のコンペが開催されました。参加者は 大北克利、佐藤光義、三枝伸、柴田實、鈴木悠、菅谷省三、高木亨一、塚本幸雄、西川洋、福本匡純、藤井正之助、吉田剛の12名の皆さんで、以降「NMTC会」と称することになりました。

ここで簡単に「東京カントリー倶楽部」をご紹介しますと、小田急新宿駅から最寄「秦野駅」まで70分、クラブバスにて15分で着き、丹沢山塊の大山山麓に位置し西に富士山を南に相模湾を望む眺望の美しい27ホールの丘陵コースです。

特に南コースからは富士山を正面に観ることができ、冬季の雪を纏った姿は見事に美しく、また秋季の夕日を背にした富士の景と相俟って当クラブの名物となっています。

年4回のコンペとは別に、毎月何組かがプレーを楽しむわけですが、気の合ったニチメンOBだけで廻る気楽さ、愉しさは何ともいえないものがあり、プレー後はひと風呂浴びてジョッキ片手にゴルフの反省談から、果ては政治や経済に及びまさに談論風発、秦野駅前で二次会となることもあります。

上述しました第一回から年に4回のコンペを重ねてきたわけですが、早いもので今年で11年も経ち12月には第42回を開催する運びとなっていて、登録会員も37名を数えるに至りました。

出身本部も今や鉄輪、機械、化合樹、非鉄、鉄原などの各本部に拡がり、会員の平均年齢も70歳前後となりましたが、海外勤務や足腰の故障、加齢に伴う不調などにより休会中の人もあり現在ゴルフを楽しんでいる人は25名前後となっています。

発足後11年も存続しその間会員が増えてきているのは、ニチメン現役時代の楽しく充実していたことや苦しかったことなどの昔話を周囲に気をつかうことなく話し合える数少ない機会であるからではないでしょうか。

年末又は年始のコンペの後には、忘年会か新年会を駅前の中華料理を囲んで毎年行っていますが、この時だけはゴルフをお休みの会員も駆けつけたりして大変に盛り上がります。ただ以前とは異なり、飲酒運転厳禁のせいでしょうか、歳のせいでしょうか呑む酒の量が大幅減ってきているのには淋しさを禁じ得ません。

ゴルフ場の選択とか腕前やスコア-にうるさくない方、気楽に廻りたい方、仲間と昔話を楽しみたい方など
NMTC会に入会ご希望の方はどうぞお気軽に下記の会員にお声をかけて下さい
または世話人の塚本までご照会ください

Eメール : y_tsukamoto@nexyzbb.ne.jp 携帯電話 : 090-8009-1165

NMTC会の登録会員37名は以下の皆さんです（敬称略、アイウエオ順）

池田 格	岩橋 宣之	牛久保 豊	内山田純一郎	遠藤 隆雄	近江岸清作
大北 克利	金山 文彦	五島 慎二	三枝 伸	佐藤 智	佐藤 光義
下浦 通洋	菅谷 省三	杉岡 孝一	鈴木 悠	竹内 可能	田中 久彦
田中 稔昭	塚本 幸雄	辻村 秀明	津田賢一郎	中原 正紀	西川 周
西田 稔	林 悟	平井 亮三	福本 匡純	藤井正之助	堀田 恒雄
松寄多賀司	水庫 博夫	三船 弘雄	村岡 治夫	村上 欣也	山本大吉郎
吉川 秀夫					



東京カントリークラブ東コース 9番ホールから見た富士山

俳句の会「いろは句会」

宇 治 田 薫

I. 句会のその後：

社友会会報No.3に次いで、今回三度目の掲載が出来る事を嬉しく思っている。

いろは句会総員14名の中にも、加齢と共に健康を害する会員もあるなど、健康不安の近年となった。然し、夫々が健康管理に努め、俳句には執念を燃やして無事に年末を迎えようとしており、去る10月21日開催の第243回句会の際には、引き続き頑張って健康と楽しみの糧にしようと、一層の健吟を誓い合った。

月例会と他流との四季合同会の両句会を通じて発表した、本年年初来の作品の中から各会員二句宛下記にご披露する事と致します。

I. 会員の発表句（アイウエオ順）：

語ること小聲の小鳥老いの庭	(あ き ら)
泰然の露座大仏や天高し	〃
春眠や魔術の如く動けざる	(宇治田 薫)
白波の連なる如き鯛雲	〃
花冷えの窓に一筋雨雫	(太田 琢也)
教会の木の長椅子やうすら寒	〃
純白の風を集むる雪柳	(久保田悦子)
鳴く声の追ひつ追はれつ小鳥来る	〃
ものの芽や明るき色の服を買ふ	(三枝 一希)
水切りの小石選る子や赤蜻蛉	〃
朝市や卸しつつ売る初鰯	(笹原 弘)
啓蟄の雨に崩れて土竜塚	〃
菜の花や沖にひとすぢ潮境	(佐藤 秀隆)
白露に光集まる朝かな	〃
波音の奏づる調べ春の海	(下川 泰子)
朝市や取立て野菜露つけて	〃
天空に大海写し鯛雲	(須藤 忠昭)
夏燕小江戸川越蔵造り	〃
魚籠軽く足取り重き麦わら帽	(塚本 幸雄)
小鳥来る沖の一群散けつつ	〃
ビル街に残る銭湯冬紅葉	(福島 有恒)
衣更へて新しき世に生きごと	〃
運針の指のさばきや花の冷え	(藤野 徳子)
朽ちかけの土塀の辺り花カンナ	〃
温む水ひととき憩ふ足湯かな	(吉村 文夫)
つかのまのまどろみの中春の宵	〃
露味噌を胃の腑に落とす酒二合	(若月 義和)
冷奴夕暮色に染まりけり	〃

以上

『 今 が 好 き 』

大 山 弘 雄

今年夏のある日、たしか昼過ぎの時間帯だったと思うが、歌手の由紀さおりがNHKテレビに出演していた。トーク・ショー的な番組だったが、恥ずかしいことに、内容についてはよく覚えていない。自分が「ナガラ族」であって、テレビを観ながら何か他のことに気を取られていた可能性大だが、一つだけはっきり記憶に残っているのが、表題の「今が好き」という言葉である。

由紀さおりの口から出たこの言葉が～どのような文脈とタイミングの中で発せられたのかは思い出せずにいるが～何故か印象深く私の脳裏から離れなかった。

思うに、人それぞれに人生があり、振り返れば、嬉しかったこと、楽しかったこと、苦しかったこと、悲しかったことなど色々あって、それぞれが思い出の一コマを構成している。幼少の頃から童謡歌手（安田姉妹の妹～安田章子）として有名であった由紀さおりの場合はどうだろう。世間からもてはやされ、愛され、夢多き華やかな少女時代を過ごした「古き良き時代」があったにちがいない。

只、人間誰しも順調な時ばかりではないから、人知れぬ苦労を重ねた時期もあったと思う。しかし、「今が好き」は、過去よりも現在をはっきりと肯定している言葉である。

また、もっと楽しいことが待っているかも知れない明日（未来）とも比べない。

楽しいことも苦しいこともひっくるめて、とにかく、あるがままに現状を受け入れ、自然体でそれに向き合っている現在の自分を是として、好ましく思っている。これは「今を大切にする」ということでもあろう。

「今が好き」～短い、なかなか含蓄のある言葉だと思った。

そして、この言葉が自分の頭の中にずっと残っていたのだが、しばらく経ったある日のこと～正確には9月18日だったが～当の由紀さおりご本人に私自身が遭遇するハプニングがあった。

これは「今が好き」の因縁なのか、神様のいたずらなのか？偶然とはいえ世の中、ときに不可思

議な事が起こるものだ。

以下に、関連した他のエピソードも交えながら、その時のことをご紹介しますのでお付き合い頂ければと思う。

ご存知の方も多いと思うが、NHKでは幾つかの番組を一般公開していて、受信料を払っている者なら誰でも観覧に応募できることになっている。

ある番組に「ダメ元」で応募してみたところ運良く当選のはがきが届いた：

◆番組名は、「BS永遠の音楽『叙情歌大全集』」（2時間番組）～9月18日収録（全国向けには10月17日土曜日午後8時から放映）

◆会場は、紅白歌合戦などにも使われるNHKホール

◆出演者は、由紀さおり・安田祥子姉妹、菅原洋一、デュークエイセス、佐藤しのぶ、夏川りみ、宗次郎、木村弓、坂田おさむ、神崎ゆう子、井上あずみ、アンサンブル・プラネタなど。

これにNHK東京児童合唱団、横浜市立太尾小学校マーチングバンドが参加。

また、ゲスト出演者に中村メイコ、司会兼演奏者にはピアニストの西村由紀江を迎えるという豪華メンバー。

出演者に不満はまったくない。日本人才カリナ奏者としては第一人者である宗次郎が出演するのも楽しみであった。（*）

（*）私は退職後の趣味の一つとしてオカリナ（陶器製の笛、オカリナともいう）を習っている。まだ初中級者の域を脱しきれないが、大胆にも恒例の秋の東村山市民文化祭には同好の高齢者仲間（12名）と一緒に2回目の出演を果たした。

問題は当日の座席である。過去の経験からいえば、収容人数の多い大会場だけに2階席や3階席だと場所にもよるが出場者の顔が遠すぎてよく見えない。後楽園ドームにあるような大型スクリーンが用意されているが、これを舞台と交互に見ているのでは興ざめも甚だしい。座席の良し悪しは観覧の楽しみを決定的に左右する。

そこで、当日都合が悪かった家内の代わりにお

誘っていたオカリナ仲間のNさん（俳句の先生もされている方）とも相談して、少し早めに出かけることにした。

開演は午後6時45分となっていたが座席指定券の引き替えは3時に始まる。我々は4時に引換所に到着した。1時間遅れだが開演時刻からみればかなり早いほうだ。

はがきに「座席選択不可。早く来ても良い座席が当たるとは限らない」という趣旨の注釈はあったが、それでも早く行った方が良い席が当たる確率は高いのではないかと思っていた。

引換所は2カ所に分かれていたが奥の方の窓口を選ぶ。どうやらそれがツキ（残り福？）を呼び込んだらしい。窓口で係りの若い女性から渡された2枚の座席指定券には「1階C4列10番」「1階C4列11番」と印刷してあった。

とりあえずNさんに10番の座席券を渡して私が11番。

チェックしてみると1階席でしかも前から4列目。いわゆる「S席」の中でもベストに近い座席である。一瞬目を疑ったが間違いなかった。Nさんと思わず握手して二度とないかも知れない幸運を喜んだ。

隣にいた女性の二人連れがこれを見て羨ましそうな顔をしている。聞いてみると、彼女たちの方が先に引き換えたのに当たったのは2階席ということだった。少し同情したが、こればかりはどうしようもない。

開演までにたっぷり時間があつたのでNさんと一緒に隣接のNHKスタジオパークの見学に出かける。「デジタル放送広場」、「暮らしに役立つ番組コーナー」、「時代劇スタジオ」、「スタジオ見学窓」、「とびだすハイビジョンシアター」等々、初めての見学者には珍しいものばかり。うまく時間つぶしをすることが出来た。

その後、併設のレストランで軽く夕食を済ませて6時過ぎにNHKホールに戻る。

地階にある「1階席入場口」近くのロビーの椅子に座り、Nさんとはしばらく雑談していたが、「あなた達、面白い話をしているね・・・」と言って隣に座っていた一人の女性から声が掛かった。

その時は、多分、日頃頭の上がない女房達を引き合いに出して、「男女を比べると男の方が断然ロマンチックで女の方が現実的」、「旦那がナツメロを聴いて懐かしがっているのに女房は何でそん

なもの面白いのかという顔をしている」などと話していたかと思うが、これが先方の耳に入っらしい。

尋ねてみると、四国（香川）から今日飛行機に乗ってやってきた由。せっせとはがきで応募してはどこへでも飛んで行くという。最近は大阪にも出かけたらしい。

世の中、色んな人間が居るものだとつくづく思った。

50歳台とお見受けしたこの女性とは、私の祖母が讃岐（香川県）生まれであったこと、私自身同地で4年間の学生時代を過ごしたこと、正月の雑煮にあんこが入っていて驚いたことなどを披露してしばらく話が弾んだ。

意外なところで意外な出会いがあるものだ。これもハプニングの一つと言えるのではなからうか。

程なく入場を促すアナウンスがあり、わくわくしながら会場に入る。

指定された座席はやはり申し分のない位置にあった。プログラム全体の進行を司る演出担当者の動きが間近に見える。観客は、拍手のタイミングなどについて説明を受け、予行演習をさせられる。

司会のNHKアナウンサーからの挨拶もあった。

座席の前の方には2台の大型カメラが低く陣取っている。よく見ると床に這いつくばるようにしてカメラを操作している技師の一人は女性だった。

カメラの傍らには「台本」のようなものが置いてある。カメラ技師が自由気ままに自己の裁量で舞台や出演者を撮っているのではないのだ。

そして、このように華やかな舞台の傍らで目立たないように働いているプロの仕事師の仕事ぶりを間近に観察することが出来たのは、やはり良い座席に恵まれたお蔭であると幸運にあらためて感謝した。

定刻に幕が上がり、出演歌手全員による「旅愁」の合唱が始まった。

舞台中央には由紀さおり、安田祥子、佐藤しのぶの3人が華やかに立っている。

菅原洋一、デュークエイセスなどの男性陣は観

客席通路の奥の方から歌いながら舞台に向かって行進し、他の女性歌手達は舞台脇から現れて合流するという演出である。

よく見ると宗次郎の顔が見えない。一瞬、我々社友会の会合などでしばしば見られる～世話人泣かせの～「ドタキャン」を連想したが、これは私の思い過ごしであったことが後で判明する。

次いで由紀さおり、安田祥子姉妹のデュエットがトップバッターで「花」を歌う。

そして、夏川りみの「朧月夜」、菅原洋一の「冬景色」、デュークエイセスの「雪の降る街を」、さらに木村弓の「里の秋」へと続く。初見参のアンサンブル・プラネタは若い女性4人のグループだが美しいハーモニーで「ちいさい秋みつけた」を歌った。

少し横道にそれるが、菅原洋一の顔を見ると今は故人となられた梶浦謙晴さんのことをいつも思い出す。この方をご存知の方は多いと思うが、私にとっては会社で大変お世話になった木材本部の先輩の一人である。

彼の話では、菅原洋一は高校時代の同級生（共に兵庫県加古川の出身）であり、時折同窓会の席などで一緒にすることがあったらしい。その席で皆から歌をせがまれた時の菅原洋一のセリフは決まっていた「俺はプロだから只では歌わない」というものであった由。四角四面に見える菅原洋一に対して、亡き梶浦さんを通じ、ちょっぴり親近感を覚えたものである。

閑話休題。NHKホールの大舞台はプログラムに従って順調に進行する。

待っていた宗次郎の演奏は、井上あずみの歌との共演で「夏の思い出」、ソロで自ら作曲の「遙かなる尾瀬」の2曲のみ。曲数は物足りなかったが、この日使用した小さな笛（高い音域を出しやすいF管の一種と思われた）を大きな手の指で巧みに操り、美しい尾瀬の風景を澄んだ音色で表現する演奏はやはり素晴らしいものであった。

佐藤しのぶがマリー・アントワネットの肖像画などによく描かれている～大きく膨らんだスカート部分をもった～豪華な衣裳で現れる。さすがは大オペラ歌手。「アニー・ローリー」、「故郷の空」そして「ロンドンデリーの歌」の3曲を音量たっぷり、情緒たっぷりに聴かせてくれる。

NHK東京児童合唱団の可愛い子供達の演奏は、往年の歌のお兄さん・お姉さん～坂田おさむ・神崎ゆう子～との共演だった。

「思い出のアルバム」、「一年生になったら」に始まり、最近の卒業式ではあまり歌われなくなったと聞くが我々世代には懐かしい「上げば尊し」で最後を締めくくる。小学校入学から卒業までの時の流れを示しながら、間に、「どこかで春が」、「夏は来ぬ」、「紅葉」、「たき火」など、四季折々を象徴する歌を織り交ぜるという趣向が楽しかった。

続いては、日本が誇る世界的なアニメ映画（宮崎駿監督の代表的作品）の主題歌の中から「君をのせて」（井上あずみ）、「さんぽ」（バンド演奏）、「いつも何度でも」（木村弓）の3曲の演奏である。

「さんぽ」は映画「となりのトトロ」の主題歌の一つで、上述の我々オカリナ・グループのレパートリーにも入っている曲だが、この日は、横浜市立太尾小学校のマーチングバンドが舞台下や観客席通路に展開して、元気いっぱい楽しい演奏を聴かせてくれた。次に登場したのが中村メイコ。75歳を過ぎたと本人はいうが声の方は昔とほとんど変わらない。戦後、映画とラジオが娯楽の主役であった時代のことだったが、

- ・物書きであったお父さんから「歌を歌う時は、まず、歌詞を何度も何度も読み返すように」と教えられたこと
 - ・NHKで「靴みがき」の歌を歌って帰る途中、新橋駅近くで本物の靴みがきのおじさんに呼び止められて先程の歌い方には誤りがあったと指摘されたこと、
 - ・それを聞いて、付き添っていたお母さんから「教えて頂きなさい」と言われたこと
- などを面白く披露する。

そして、最初に歌詞の朗読（紹介）があつて次に歌が始まる。

初めは、「山小舎の灯」（昭和22年の「ラジオ歌謡」）。

中村メイコが歌詩を朗読する：

「たそがれの灯はほのかに点（とも）りて懐かしき山小舎は麓の小路よ・・・」。

デュークエイセスの男声合唱が、これを高らかにフォローする。

続いては「白い花の咲く頃」（昭和29年）。多くの人達に愛された名曲である：

「白い花が咲いてたふるさとの遠い夢の日
さよならと云ったらだまっとうつむいてたお下
げ髪・・・」

菅原洋一がしっかりと主旋律を、そしてアンア
サンプル・プラネタの女性コーラスが巧みに伴奏
部分をハモる。ここでも、歌詞の朗読とプロ同士の
アンサンプルが実に見事な調和を感じさせてく
れる。聴く者は、詩の朗読からまず情景を脳裏に
思い浮かべ、自らの若かりし頃に思いを馳せる。
つづいて美しい旋律が耳に届き、歌の持つ叙情を
盛り上げて、それが観客の心に沁みる。昭和20年
代から40年代にかけて、新しい「ラジオ歌謡」が
いくつも登場したと思うが、あの頃のことを懐か
しく思い出させる趣向がそこにあった。

プログラムは順調に進行し残り少なくなってい
ている。時間が経つのが速い。

突然、隣に座っていたNさんに脇腹を軽くつつ
かれた。何事かと思い彼がそっと指さした方向を
見ると、なんと、通路側だった**私の席のすぐ斜め
後ろに由紀さおりが立っているではないか**。これ
にはびっくりする。

鈍感にも舞台にばかり私の視線が集中していて、
それに気付かなかったのだ。

しかし後ろを向いたまま、彼女の方を見詰めて
いる訳にもいかない。

舞台の方に向き直りとりあえず平静を装う。

観客へのサービスであろう。彼女は観客通路に
目立たぬように降りて来ていた。

そしてその場所で、お姉さんの安田祥子が次に
歌うことになる「**さくら貝の歌**」の作曲者八洲秀
章にまつわるエピソード～恋人が若くして亡くな
り不毛に終わった哀しくも美しい初恋物語とそれ
を知った友人の作詞によりこの曲（昭和24年）が
出来上がった経緯等～を紹介してくれた。

その直後だったと思うが、由紀さおりの手にし
ていたマイクが、さっと通路向かい側の女性客の
一人に向けられた。好きな曲が何かを訊いてい
る・・・。曲名を言って何とかうまく応答してい
るようだ。とにかく他人事なので気楽に見ていた。

すると、由紀さおりが振り向きざまに、今度は、
通路反対側に席に座っていた私にマイクを差し向

けるではないか。びっくりした。年甲斐もなく胸
がドキドキである。

冷静に考えれば、当然予想すべきだったかも知
れないが「時すでに遅し」。

「おとうさんはどんな曲がお好きですか?・・・」
と由紀さおり。

突然のことで頭の中が真っ白になっていた私に
は、沢山知っているはずの曲名が一つとして出て
こない。

「叙情歌はぜんぶ好きです」～もごもごとした、
私のとっさの返事だった。

それ自体に嘘はないが、いかにも素っ気ない返
事だったと思い、後悔した。

お前は機転の利かない奴だ!「椰子の実」でも
「荒城の月」でもよかったし、他に幾らでも言うこ
とはあったはず・・・。

由紀さおりが「あらまあ、ホホホ・・・」と言っ
た調子で巧みにフォローしてくれたのでその場は
何事もなく進行したが、しばらく私は独り憂鬱な
気分だった。

自意識過剰なのか?そんな私の胸中を知るべく
もない隣のNさんからは「おとうさん」で良かつ
たねと言われる。

由紀さおりのようなタレントが、このような場
面で「おじいさん」と言うはずがないし人を見て
モノを言う術はちゃんと心得ている・・・と思いな
がらも、「おとうさん・・・」と呼ばれたことをあら
ためて思い出し、満更でもない気持ちになり、先
ほどの後悔の念も少し薄らいだように感じたのだ
から、やはり自分は単細胞なのだろう。

本稿の初めの部分で「私が由紀さおりに遭遇す
るハプニングがあった」と言ったのはこのような
場面を私が実際に体験したことによる。

考えてみれば、3千人に近かったと思われる当
日の観客の中で由紀さおりにマイクを向けられた
のは2名だけ。そのうちの一人が自分であったの
だから、起こる確率がきわめて低い事象が自分の
身に起こったということになる。

由紀さおりご本人にとって、私の事情などは
まったくあずかり知らぬ話なのだが、

私にとっては、それが単なるハプニングではな
く、「今が好き」という話が先にあって、しかも良
い席に恵まれる幸運が重なったが故にはじめて起

こり得た事象～「今が好き」が取りもつ因縁～と感じられたのである。

とにかく、私にとってこの日は忘れ難い一日となった。

最後に、その後の舞台進行などについて少し触れて本稿をお終いしたい。

上述のように、由紀さおりは「さくら貝の歌」のエピソードを紹介したのだが、他にも「ちゃっきり節」と「花の街」の2曲について、作詞をした二人の著名人(北原白秋と江間章子)のエピソードを紹介してくれた。

面白かったのは、「ちゃっきり節」が静岡県の民謡だと思っていたら、実は遊園地のコマーシャルソングとして作られたもので、完成までに北原白秋がさんざん苦労した～芸者遊びに明け暮れて締め切りに間に合わない懸念があったが、芸者の一言で曲想が湧いてきてやっと仕上げる事が出来た～というお話。この話は私も知らなかったが、

パソコンの百科事典で調べてみたら詳しくその話が載っていた。

プログラムの最終章は、

～西村由紀江がピアノソロで「かあさんの歌」

など母に因んだ5つの名曲をやさしく；

～夏川りみは「芭蕉布」と「涙そうそう」の2曲を沖縄風に切々と

～デュークエイセスが「椰子の実」で望郷の想いを

～菅原洋一はおはこの「忘れな草をあなたに」をしつとりと

～由紀さおり、安田祥子のふたりは昭和初期に生まれた名曲「赤とんぼ」を美しく、

それぞれが見事に歌いきって、フィナーレは「故郷(ふるさと)」を全員で合唱する。

出演歌手、会場が一体となった瞬間であり、しばらく感動の余韻は冷めなかった。

以上で私の話は終わりである。

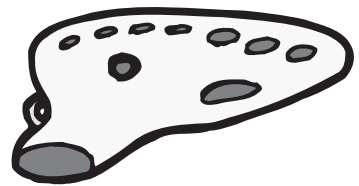
10月17日(土)のBS放送(*)をご覧にならなかった方々にも情景が少しでも伝わればと欲張り、長々と駄文を連ねてしまったが、辛抱してお付き合い下さった皆様には

心から感謝したい。

(*)実際の放送では、由紀さおりに私がマイクを向けられた部分は、私の願い通りカットされていたのでホッとしている。

皆様の益々のご健勝をお祈りするとともに、私自身は「今を大切に」しながら、

多少の困難があっても、「今が好き」と言えるように残りの人生を過ごして行きたいと思っている。





『ウィーン我が夢の街』

岩 下 恒 則

ズイーチンスキー作曲のこの歌を初めて聴いたのはアルゼンチンのタンゴ歌手カルロス・ガルデルだった。その流れるような甘い歌声、郷愁たっぷりの歌を聴いたときの感激を未だに忘れることが出来ない。

ウィーンへは仕事で2回、観光で1回と合計3回訪れたがああ優雅で上品な街並み、シェーンブルン宮殿、シュテファン大聖堂をはじめとする豪華な建物、バベルの塔を描いたブリュゲルの絵画が展示されている美術館etc何度訪れても飽きることがない。

また訪れた際はこの「ウィーン我が夢の街」の曲が脳裏を離れない。

偶々先日NHKハイビジョンでウィーンフォルクスオーパ、メラニーホリデイ演奏会の様子が映し出されメラニーが歌った「ウィーン我が夢の街」を聴いて新たな感動を覚えた。

同時にカルロス・ガルデルの歌では判らなかった日本語の歌詞がテロップで流されこの曲のイメージが大きくふくらんだ。

著作権の問題で全曲転載できないのが残念だが1番では「我が家も同然のウィーンの街の素晴らしさを讃え万一ここを去らねばならないとなったら恋しさが募るだろう」と歌われ2番では次のように続いていく。

「私の意志にかかわらず
いつか この世を去らなくてはならない
この幸福ともお別れなのね すべてに終わりが
あるのだから
いや私は消え去りはしない
天に昇り 腰を下ろすの ウィーンを眺めるために

シュテファン大聖堂が見上げて あいさつして呉れる

遙かかなたから 聞こえてくる歌声
その調べは心に響き 私を引きつけてやまない
ウィーン ウィーン あなただけが
私の夢の街になれるのよ
その古きたずまい 行き交う愛らしい娘たち
ウィーン ウィーン あなただけが
私の夢の街になれるのよ 幸せに浸るところなの
あなただけが私の夢の街になれるの
ウィーン ウィーン 私のウィーン」

(NHKハイビジョン放送テロップより)

「いつかこの世を去らなくてはならない、この幸福ともお別れなのね、すべてに終わりがあるのだから」と歌詞を読んで気付いたのは作曲家ズイーチンスキー、ないし作詞家の頭の中に死後の世界がじつに明るく描かれていているということだ。「そもそも造物者は私を大地に載せるためにこの体を与えてくれ、私が苦勞するために生命を与え、私が安らぐようにと老を与え、そして休息させるために死を与える」とは荘子の言葉（老子・荘子 野村茂夫訳角川ソフィア文庫）だが天国で腰を下ろしてゆっくり休息しながらウィーンを眺める・・・その発想が東洋的で明るく面白いこの歌が一層身近に感じられるようになった。

【註】ズイーチンスキー；Rudolf Siczynski
オーストリアの作曲家（1899－1952）



書評

『鷺と雪』(第141回直木賞 受賞作品) 北村 薫 著(文藝春秋)

渋谷 義

文藝春秋 出版の「鷺と雪」には、「不在の父」「獅子と地下鉄」と「鷺と雪」の三編が掲載されている。三編に共通していることは、主人公であり語り手の「わたし」・上流階級の娘である花村英子と、その運転手兼護衛役のベッキーさん（別宮みつ子）の二人を中心に物語が進んで行く構図となっている。

著者は、1949年生まれ、日本推理作家協会賞も受賞している。直木賞受賞作家は、既に多数の著作があり、ベテラン作家である。三編とも、太平洋戦争前の上流社会を描いており、時代背景も的確に書かれている。巻末の参考文献を見ると、凄い量の文献には驚いた。鷺は、能楽の演目であり、意のままに飛ぶ。優雅な能も少しは理解できないと、本書は馴染みづらいかもしれない。

「鷺と雪」には、芥川龍之介のエピソード（鵠沼雑記）や昭和10年の夏、帝都の夜空を深山のブッポウソウが鳴き渡ったという当時話題になった話も出てくる。文中、「古来、ドッペルゲンガーを見るとするのは、縁起の悪いこととされている」などの表現は、少々理解しづらい。ドッペルゲンガーとは、「ドイツ語で生き写し、分身、自分の姿を自分で目にする幻覚現象である」と、広辞苑に解説されている。

後半には、山村暮鳥の詩が紹介されており、その一行に「騒擾ゆき」という言葉がでてくる。国

を騒がすことに雪が繋がるのは、桜田門外の変を連想させる。また、昭和11年の2・26事件を想わせる描写にもなっている。ひどく寒い雪の日、陸軍の青年将校らによるクーデターであった。

「不在の父」の軸となった出来事は、「男爵松平斉の失踪事件」を題材にしている。作家の想像力には感服するが、一方、「事実は小説よりも奇なり」ともいう。

今回の芥川賞「終の住処」にしても、著者（磯崎憲一郎）の知り合いの男性が、11年間も家で食事をとらなかった（その後夫婦和解）事実に感銘し、題材にした小説である。

アンソロジスト（詩文などの選者）でエッセイストの著者であり、全てに趣向を凝らした北村文学である。直木賞の「鷺と雪」を読んだだけでは、北村文学の世界は理解が不十分に思えた。北村作品は登場人物や時代背景が同じでシリーズになっているものが多い。

やや抽象的で比喩・暗示的な描写もあり、ドラマチックなストーリーではなく、戦前の政治、軍部、社会と上流階級の生きざまを描いたエッセイ風な小説に思えた。

以 上

平成21年8月31日



書評

『異端の大義』上・下 にれ 楡 周平 著 (新潮文庫)

渋谷 義

著者は、1957年生まれ。米国企業在職中、執筆した「Cの福音」がいきなりベストセラーになり、衝撃のデビューを飾った。時代を先取りしたテーマと幅広い作風で、話題作を発表し続けている。

上・下で1300頁もある長編で、読み応えあった。物語は、バブル崩壊後の不況下を背景に、業績不振の大手総合家電メーカー東洋電機をめぐる、スリルある経済・冒険小説になっている。密な三洋電機がモデルであるという。松下幸之助の義弟である井植歳男が社長であった。三洋電機の取材をしており、またリストラを題材にした経済小説である。

本書は2003年から2005年にわたり、サンデー毎日に連載された。現在の経済・金融危機を予測したのかと思われるほどの厳しい内容のストーリーの展開である。

大手家電メーカー東洋電機で働く高見龍平は、米国シリコンバレーで長く活躍していたが、半導体開発部門の撤退で帰国した。帰国してからは、市場調査室に配属された。取締役人事本部長の湯下とは同期で親しかった高見だが、湯下の社内不倫を諫めて湯下の機嫌を損ね、子会社へ出向させられ工場閉鎖の厳しい役目を負わされ、挙げ句の果てに、会社を辞める羽目になった。

高見は欧州電機メーカーのカイザーの上級幹部に能力を見込まれ、中国巨大市場の開拓へと邁進する。次に日本市場を狙っていたカイザーは、不振を極める東洋電機を支配下に置くプランを立てた。その筆頭に高見は抜擢され、かつて働いていた東洋電機に進駐軍の頭で乗り込む。

安西社長や湯下取締役などの一族を退任に追い込む辛い役割を高見は演じる。私も海外勤務・国内の子会社への出向を経験しているので、読み進みながらストーリーの展開に些か身につまされた。

小説の題「異端の大義」は、具体的に何を意味しているのか？ 十分理解できずに、読み進んだ。バブル崩壊後の不況下、グローバルスタンダードの実績主義で、大量解雇が進み、年功序列・終身雇用も大きく改変を余儀なくされた。派遣社員制度も小泉・竹中政権で、行き過ぎと思われるほどに進み、多喜二の蟹工船が若者に愛読される切ない世の中になっている。

主人公の高見は、東洋電機の子会社に派遣されても、本社の意向を少々無視して、温情主義でリストラを進めた。読み終わって、彼の理念・行動が「異端の大義」であったことを、ようやく理解できた。

平成21年5月28日 記



アジアと日本

山 邑 陽 一

H.G. ウェルズは、その「世界史概観」において「全人類史上、そのとき日本が成功したほどの長足の進歩をなしとげた国家はかつてなかった」と述べ、インドの詩人タゴールは、1916年に東京帝大講堂で「日本は悠久無限の過去を持つ東洋を双肩に担って、深い水の中から秀麗に咲き出した蓮華のようだ」と述べた。

1924年には中国の革命家孫文が神戸高等女学校で2千名を超える聴衆に講演し「あなたがた日本民族は、すでに欧米の覇道の文化を手に入れているうえに、またアジアの王道文化の本質をもっておりますが、いまより以後、世界文化の前途にたいして、結局、西方覇道の手先となるのか、それとも東方王道の干城となるのか、それはあなたがた日本国民が慎重にお選びになればよいことです」と述べて、講演を締めくくった。

この講演は孫文の最後の来日時におこなわれ、翌年孫文は逝去したので、孫文の「日本への遺言」と呼ばれる。なお同伴した宋慶齡夫人はそのとき「現代婦人の覚悟」と題する講演をおこない、聴衆は彼らを熱狂的に歓迎した。

同じ講演の中で孫文は「もっぱら武力をもちいて人を圧迫する文化のことを一覇道をおこなう」と申します。だからヨーロッパの文化は覇道の文化であります。しかしわが東洋では、従来から覇道の文化を軽視し、別に覇道の文化よりもずっとすぐれた文化をもっております。この文化の本質は仁義道徳であります。このような仁義道徳をもちいる文化は、人を感化するのであって、人を圧迫するのではなく、人に徳を慕わせるのであって、人を畏れさせるものではありません。このように人に徳を慕わせる文化のことを一王道をおこなう」と申します。アジアの文化はすなわち王道の文化であります」と述べ、また

「ヨーロッパ人にたいして、ただ仁義によってかれらを感化し、アジアにいるヨーロッパ人に、平和のうちにわれわれの権利を返してくれるようにとめるのは、虎に皮の相談をもちかけるような

もので、とうていできない相談であります。われわれが、われわれの権利を完全にとり返そうとすれば、これを武力に訴えなければなりません」と述べて、アジア人の武力蜂起によるアジアの解放を訴えた。

この考え方は「大アジア主義」と呼ばれ、一読してかの「大東亜共栄圏」を想起するが、後者を実行したとされる太平洋戦争（当時日本のいう大東亜戦争）では、現在のアセアン各国で日本軍は「解放軍」として各国を欧米支配から解放し、今では各国から感謝されているのに対し、その前に武力進入した中国とモンゴルでは「侵略軍」として国際的な非難を浴び、中国は米国に、モンゴルはノモンハンでソ連に助けを求め、日本は独伊と共に世界の大半を敵に回して戦い、ついに西方覇道の餌食となって原爆をくらひ、果ては中国とモンゴルを西方覇道の別派である共産主義へと追いやる結果になった。

かつて日本領土であった台湾と朝鮮半島とで日本の支配に対して評価が分かれるのは、この「解放軍」か「侵略軍」かの区別と関連する。日本がかつてのヨーロッパ支配から台湾を武力で解放したあと、実業家たち文民が台湾の経済を発展させ、固有の文化がなかった台湾に日本文化を育てた。朝鮮半島では日本は侵略軍として現れ、既存の文化を破壊して軍部中心の支配を続けた。今も両者の対日感情に差があるといわれる所以である。

このように成功と失敗とが相半ばする所業をした者として日本人は、成功に対する感謝や賛辞は喜んで受け、失敗についてはそれによって被害を与えた相手国に率直に謝罪して（これはもう十分になされている）、今後これを繰り返さないことを約束すると共に、自らも利潤を得ながら、与えた被害に勝るメリットを相手国に与えればよい。

その方法がビジネスであり、日本企業は国際ビジネスの場でその大きな役割を果たし続けてきた。これによって、戦後欧米と日本のくびきから解放

されて独立したアジアの各国の成長を、日本が助けることができた。覇道によらない、王道によるアジアの共存共栄ができた。西方覇道の国では殺戮を禁じる宗教さえその根拠となるが、アセアンでは仏教国・イスラム教国・キリスト教国が団結の核をなしている。欧米では伝統的な軍商一致の富国強兵政策に基づいて、軍事力と共に経済力をハードパワーと呼ぶが、win-win関係に基づくビジネスの場で経済力を用いるならば、相手国を傷つけないソフトパワーとして用いることができる。明治維新の際に士族はすかさず刀をそろばんに持ち替えたが、戦後日本でも同じことが行われて成功した。

今や日本のビジネスの相手国は、貿易面でも投資面でも中国が第一位となった。むかしチャーチルは「日本の技術と中国の人口が結びつけば悪夢だ」という「黄禍論」を唱えたが、現在の軽武装・

経済第一主義・平和的発展路線の日本を見るならば、チャーチルも悪夢とは思うまい。

今の中国がもっとも望むものは平和と科学技術である。平和がなければ経済発展ができず、日本からの科学技術の受け入れもできない。平和と科学技術のゆえに中国人らアジア人は日本を愛し、多くの中国人らアジア人が日本へ留学にやってくる。米国流の金融工学でなく、日本の科学技術こそ彼らが学びたいものであろう。

欧米と太いパイプを持ちながら中国を含むアジア各国との共存共栄を果たすこと、それが日本の歩むべき王道であり、日本が実践によって世界に提示した新しい通商国家モデルである。この基盤の上でこそ、総合商社がアジアと世界の平和と発展のために、最も貢献することができる。東アジア共同体への最も近い道程でもある。

以上



今2009年のベトナム行脚、他の報告

～我が社会人生の原点メコン開発の流れを追って～

久 澤 克 己

((プロローグ))

私は前にも書きましたが、年号が昭和から平成に変わった89年に時の会社定年58歳で記念の腕時計CITIZEN Exceedを頂戴して退社しました。この89年と言う年は今にして思えば歴史の転換点とも言える大変な年でした。日本で元号が変わったばかりでなく東に天安門事件、西にベルリンの壁崩壊するや東欧各国に民主化の波が走り、翌年早々東西ドイツ統一、2年後には旧ソ連崩壊から後戻りの無い冷戦の終結へと続いた年でした。

あれから20年、我がCITIZEN quartzは静かに時を刻み続けていますがミレニアム年を挟んだ、この20年の世の中の動きは御案内の通り真に激しく驚くばかりでした。ざ～っと振り返って後述したいと存じますが、

平凡な一個人、私自身はあまり影響されることもなく社会人生第二幕の冒頭で遭遇した世界史の変動中にも有難い事に私なりの役と場を与えられ先ずは無事過ごすことが出来ました。ご縁あって先ず中小企業事業団海外投資アドバイザーの委嘱を受け、虎ノ門の国際部局で前後6年間ベトナム進出企業のため事前調査や現地アドバイスを担当しました。この中小企業事業団(現中小企業基盤整備機構)は元社長故福井さんが日綿引退後初代理事長を務められています。民間出身理事長福井さん以来これまで他にはなかった由です。私は事業団の後、永田町近くの砂防会館にある社団法人ベトナム協会の理事を13年務め今年の定期総会で参与になりました。

同理事在任中は主に日越の経済交流案件を担当し何度も現地各地を訪ねて来ましたが、今年も八月、中部のダナンとホイアンで開催された「日メコン交流年」行事に出かけ、二月には日本アセアンセンターのミッションでタイから陸路カンボジアを通してホーチミンに出る南部新経済回廊を視察し、我が社会人生の産湯を使わせて貰ったメコン川の周辺の変遷もしっかり見て来ました。

合間の七月に長谷川社友に唆され彼が世話役を務める伝統ある「横浜時事英語クラブ」で、英語!で「メコン開発今昔物語」と題してスピーチをす

る事を引き受けさせられました。たまたま今年は上記の「日メコン交流年」ということで、流域5カ国の首脳を招いて東京での開発協力会議も五月から予定されていたので、私も往年の彼地駐在時代情熱を燃やして取り組んだメコンプロジェクトについて他でも話をさせられたり執筆もしていました。しかし、それらはオール日本語でして英語で講演するなど思いも寄らず、始めのうちは「日本語でも好いですよ」と言われていたような気もしますが、いつの間にかベテラン方ばかりの前で大胆不敵にもall in Englishで演る事になり先ずHandout作りから大汗をかきました。長谷川社友は誰か人を口説いて、その気にさせる名人ですが、それはさて置き、以上の今年の我が三大イベントの顛末と、その前にちょっと過ぎし20年の激動の世情回顧、そしてメコン開発の過去と現在、特に民主党鳩山政権の東アジア共同体構想への傾斜とメコン開発重要視政策などについて所感を述べさせて頂き近況ご報告に代えたいと存じます。一先ずは、しばし激動の20年の回顧から・・・

【激変した世界情勢】

東側の退場で東西の対立が終焉した当初はアメリカ一極支配体制が言われましたが、それが確立される間もなく、中東から南アジアにかけて原理主義イスラム陣営との難儀なテロ戦争が始まり、いつ終わるとも知れぬ泥沼状態になっています。ヨーロッパではEUの実現・拡大、グローバルにはBRICsと呼ばれる新興有力国群の台頭があり、中でもロシアの経済的復権、アジアでは中印両古豪大国が経済に留まらず政治、軍事、文化他あらゆる面での存在感を圧倒的に強めています。東南アジアは域内国全メンバー加盟の「東南アジア諸国連合」ASEAN10が発展・進化を遂げ2015年にもアセアン統合をめざす段階に来了います。EUと異なり人種や宗教だけでなく政治形態・価値観の相違と大きな経済格差も内包しながら、すべてを乗り越え実現図ろうとする歴史的な営みで成功の暁には「アジアの時代21世紀」の先人として、この十カ国統合体が来るべき拡大東アジア共同体実現の際には「運転席に座る資格」を保証されると思います。

我が国内でも、戦後の55年体制確立以来半世紀余り続いてきた自民党政治がこの20年間で制度疲労の行き詰まりをみせ紆余曲折ありましたが、遂に今夏の「平成維新」或いは「投票による革命」と言える政権交代で民主党鳩山内閣が発足したばかりです。今は国民の過半数が期待を寄せる新政権ですが内外に山積する難問題、立ちはだかる諸案件を抱えての船出で、与えられた4年間に、どのような手づな捌きを見せ国家百年の計を確立して行くか、まさにこれからの課題だと思いますが、一つ、上記ASEAN10の動きに呼応する形で、しかも範囲は東南アジアから東アジア全体と、より拡大地域共同体づくりを提唱している事は賛同に値することだと思います。かつて明治維新で「脱亜入欧」、64年前の敗戦で「脱和入米」して今日に至った我が国のこれからの方向につながる選択と存じます。

[更たためて入亜親米時代]

具体的には既存のASEAN10を核に+3（日・中・韓）と更に+3（印・豪・ニュージーランド）の計16カ国で構成され、平和の海太平洋越しに緊密に繋がれている依然大男の隣人アメリカとも力を合わせて運行する共同体の設営ということですが、その実現の為鳩山新政権は更に、再びASEANユーラシア大陸部五カ国にまたがる地域最大の国際河川メコンと、その拡大下流域GMS（Greater Mekong Sub-region）の総合開発を推進のメイン・エンジンと位置づけ、五カ国（西側からミャンマー、タイ、ラオス、カンボジア及びベトナム）と手を携え早期実現を期し策動開始したことも特筆評価されるところです。

「更に、再び」と書いたのは、先の大戦後疲弊しきっていたインドシナのこの地域の復興と発展の為に1957年から始められた初期メコン川開発計画という先行実績があったからです。あの時は流域4カ国（CLTV即ちカンボジア、ラオス、タイ及び（南）ベトナムの4カ国だけ）による「メコン委員会」を中心に、日米中（当時は中華民国・台湾から参加）を含む当時の西側10カ国ぐらいがこぞって技術協力し国連、世銀の支援のもと10余年にわたって営々と調査、立案、企画そして提案が繰り返されていました。この話を私は大阪万博の年70年に帰国して社内報「月刊ニチメン」に「メコン開発70年代の展望」と題し、それまでの調査結果による本流、支流上の幾つもの有望案件も並べて詳しく報告しています。そして、これらは総て今世紀内（即ち去る2000年まで）に実現されているだろうと希望的観測を述べてありました。し

かし若かりし前駐在員殿の夢は、その後余りにも長く続いたベトナム戦争とインドシナ全域の戦乱そして97年のアジア通貨危機で前世紀中には遂に実現に至らず、ミレニアム越えの今世紀に持ち越されたことはご案内の通りで、この顛末は一昨2007年5月の本会報No.2でも詳しく述べた通りです。

ただ、この歴史的な大開発計画に現地駐在員として当初から関わっただけに私は今度新政府がアジア回帰を宣明し、同時にメコン地域開発推進を更たためて提起したことに深い感慨を覚えています。

[東アジア共同体推進のメイン・エンジンと言う意味]

メコン流域とは、いわゆるSub-regionだけでも61万平方キロと日本全土の1.6倍もの面積ですが、ここは漢語でしょうか「天府」の地とも呼ばれています。地味が肥えて産出物が豊かな土地で、同時に人間の英知が働く土地の謂いの由ですが、此処で早くも世界が注目するような色々な地域開発が目白押しに進んでいます。エネルギーはもとより灌漑、環境、観光、資源開発、広域インフラ整備の要としての域内高速道路、鉄道の建設、空海港の新設や拡張更に各国内の工業化、近代化を目指すプロジェクトが様々な形態、規模、資金で、まさに「母なる」メコンの流れそのもののようには昼夜を分かたず展開されています。私はその全体規模と効果は前世紀30年代の大恐慌からアメリカと世界経済を甦らせたNew Deal政策のTVAに匹敵すると考えて来ましたが、或いはTVAより以上の持続的なインパクトを秘めていて「アジアの世紀」・今世紀の主役「東アジア共同体」のメイン・エンジンたり得ると確信しています。一前講釈のような話が長くなりましたが・・・

[今年の訪越報告]

先ず二月早々、タイからず〜っと陸路でシャム湾沿いにカンボジアの新港シハヌークビルを径由して主都プノンペンに上り、更にバスを乗り継いでホーチミン（元サイゴン）までの新しい高速道路・南部回廊の視察に行きました。シハヌークビルには我が国ODAで70ヘクタールの小型工業団地も整備されていましたが、此処はメコン大開発の東の兵站・ダナン（南シナ海とインド洋を結ぶ東西経済回廊の起点）に対し南側の兵站到擬せられています。

八月にはお盆の最中、「日メコン交流年」記念行事として行われたダナンでの中部ベトナム投資シンポジウムに参加し近くにある御朱印船時代の古い日本人街の残る、此処も世界遺産のホイアン市

の、その名も「日本橋」の袂で彼我歌と踊りの交歓フェスティバルを楽しみ、お隣カンボジアにもAir VN定期便で一飛びし何十度目かのアンコール・ワット寺お詣りがてら麓のシエムレアップの街での日・カンボジア交流記念祭にも一夕出席。更に欲張ってハノイにも足を延ばし、同西郊30キロで三分どおり進んでいる新しいHoa Lac High Tech Parkと言うベトナムの「つくば学園都市」の建設現場も見学して帰りました。此処はベトナムが日本に支援を要請している「首相案件」と言われている三大案件の一つで、今春JICA－日本工営のエンジニアリングでFinal F/Sが終わっています。残りの二大案件とはハノイからホーチミンまでの新幹線と同区間の中仙道（高速自動車道路）の建設です。

話が戻りますが、二月に走破した1140キロのうち、シャム湾沿いのタイーシハヌークビル間の湾岸新道路は、タイからカンボジア中央部を横断してホーチミンに向う、いわゆる南部回廊とは異なる、サブ南部回廊とも呼ぶべき、もう一つの最新道路でした。半世紀前の我が駐在時代には考えられもしなかった立派な国際物流インフラが2本完成していました。ただプノンペン－ホーチミン間の上記南部回廊の東部でもある国道1号線がメコンの本流を横切っているネアクルンという所（カンボジア領内）がありますが、此処には何年も前からF/Sも繰り返されながら未だ橋が架けられておらずバスごと舢舨に乗って渡り、ああ～昔サイゴンからプノンペンに「おんぼろ」シトロエンで赴任した時と変わらないな～と妙に懐かしくて、ちょっと切ない気分になりました。帰国してMOFAの地域担当官から、この橋もODA案件として早くからリストアップはされている事を聞き、拡大共同体構築のメイン・エンジンの大動脈というべき地点だけに1日も早い施工をと陳情した次第です。

ネアクルンの渡しを舢舨（写真）で渡るのは、ほんの10分くらいでしたが滔滔たる水の流れを間じかに見るとメコンはつくづく大きな川だったな～と改めて思い、またベトナム協会の前事務局長でアジア太平洋議員連盟の事務局長も長く兼任した故西川捨三郎という先輩が、この人も古くからベトナムに駐在しメコン調査にも関わられた人でしたが後輩の私たちに遺してくれた短歌の一首、

“火焰樹の映えるメコンの岸に立ち

若き日燃ゆる想いのありき”

を我知らず口ずさんでいました。

[YCECでの英語講演]

7月25日（土）曇。長谷川社友とJR石川町駅で待ち合わせ会場に行きました。

－いよいよ今年の我が三大イベントのハイライト「横浜時事英語クラブ」でメコン開発史を語る日。

私は先ず時の話題として、ベトナムのポテンシャルを問うWhy Vietnam? こちらは、ほぼ持論を述べさせて貰った後メコン開発については本報告書で上述してきたような話をしました。そして、これまでの開発史としては流域四カ国だけでの初期「メコン委員会」時代から今日のGMS会議まで、メコン川という「線」から流域「面」への転換があったわけだが、不幸な地域の戦乱－冷戦時代の大国の代理戦争の面も強かった一に崇られた過去50年を「波乱の半世紀（Turbulent Past）」と総括し、来るべき、これからのGMSの全「面」的即ち流域全体開発のあるべき姿としてはall Asia "including China" で手を取り合って進むべきと強調し、Otherwise, Uncertain Futureだと結びました。まさにメコン地域とは日本無しでは語れても、上流の地続き雲南／中国抜きでは語れない所だからです。これからは関係五カ国とともに中国も開発のパートナーとして受け入れ、資金も出し合い、開発に伴う諸問題特に温暖化対策など環境問題等で彼我技術力も競い合う形で全員で発展してゆく時代でないかと付け加えました。

前後1時間半くらいかかりましたが、時宜に適していた所為か皆さん最後まで聴いて下さり5名の方から質問も受け、終了は4時半。この後、懇親夕食会に招いて戴きましたがYCECは毎月このような勉強会を過去半世紀に560回やって来たと言われ驚きました。更に今日の出席者は元大学教授、アジ研、自治省OB、現役歯科医、メーカー（日立、東芝、三菱重工、IHI、住重、日本石油精製、NCR etc）日経新聞、日本郵船、兼松、東急などのOB、高校教師、翻訳者、主婦などでしたとのことで、更に冷汗三斗！の思いでしたが、こんな、なかなか経験出来ない貴重な機会を逃えてくれた我が社友にMy Heartfelt Thanks！

以上で私の今年の報告を終わります。来年もMy CITIZEN quartzとともにベトナムとメコン行脚を続けたいと思っていますのでAll社友の皆様、来年もどうぞ宜しくお願いします。良いお年を！

想いでSanforize

浜 地 道 雄

中東ビジネスにおける thrilling な経験のひとつが、シリアのダマスカスにあるアラブ連盟「イスラエル・ボイコット本部」での交渉だ。

Central Office for the Boycott of Israel (OBI) はパレスチナを支援するアラブ諸国がイスラエルを経済的に孤立させるために取ったボイコット運動開始とともに1951年5月設立された。

記憶ではコカコーラはサウディアラビアでは代理店の名をとり Kaki-Cola として販売されていた。

「商品」だけでなく、エリザベズ・テラなどユダヤ系人の「文化活動」も許さないというのだから厳しい。モンブランの雪を模したといわれる万年筆のキャップのマークがイスラエルの象徴「ダビデの星」と似てるといのでボイコット。

イスラエルには日本車はアラブを恐れてスバルしか輸出されてなかったし、旅券にイスラエル入国スタンプがあると、アラブには再入国できない。

ことほど左様に「ともに天を仰がず」の関係を肌で知っているだけに、ダマスカスという旧約聖書から新約聖書の時代の最古の都にあっても歴史宝庫見物どころではない。緊張のOBI訪問の目的はサンフォライズの解除だった。

サンフォライズとは米国の Sanford Lockwood Cluett (1874-1968) が発明し、Sanforized™ として1930年に登録された綿生地「収縮加工」(pre-shrink)技術。Sanfordという個人名に suffixes(接尾語)-izeをつけて「動詞化」Sanfor-ize (d) したという面白い例だ。

どうやら Sanford がユダヤ人というのがボイコットの理由だが、しかし、アラビアへの輸出主要品のトーブ(民族衣装)用の生地が禁止だと、生活上困るわけだ。

「日本(のメーカー)とアラブは親密で結ばれねばならない。この技術を禁じられると、お互いの友好が成り立たないではないか」と熱弁を振るったように記憶する。それが奏功したのか、後年、解除された。

さて、サンフォライズについては興味深いジーンズの歴史がある。1870年代、ゴールドラッシュに沸くアメリカ。リーバイ・シュトラウスがキャンバス生地に銅リベットで補強した作業着が好評を博したのが原型。水洗いをして縮むのが当たり前で、“shrink to fit”と、自分の体に合わせて縮むからこそ素晴らしいとされていた。

1947年、ラングラーはこのデニム地に初めて「サンフォライズ加工」をした。つまり「収縮しなくなった」というのが、大変化である。ジーンズのフロント部の開閉はBUTTON FLY(ボタнтаイプ)だった。1926年、H・D・リーは最初にZIPPER FLY(ジッパータイプ)を採用したが、生地が縮むのでは具合が悪かったろう。ところが、サンフォライズ加工をすると、つまり生地が縮まないから「ボタンからジッパー」が可能になった。これは、好事家にとってはいまなお大事な「争点」のようだ。

因みに、Cluettは同じ原理で、クラフト紙にひっぱり強度を増す技術を発明。その名をとったClupak紙(伸張紙extensible paper)が包装紙などに使われている。

ボイコット会議の開催は1993年の和平交渉から緩和で同年が最後と聞くが、近頃、また緊張のイスラエル・パレスチナ問題。伸張extendでなくshrink収縮であってほしい。

(株)日本在外企業協会「グローバル経営」より転載・加筆

勉強好きに変身“学問のすすめ”

岡 島 岩 男

退職後の有り余る時間の有効活用のために何をしたら良いか、私の場合は「仏教」を勉強することにしました。香港には十年も駐在していたこともあって、中国大陸は勿論のこと東南アジア諸国諸地域を歩き回る機会も多く、随所で見かける仏教寺院とその独特の雰囲気に興味をいだいていました。しかし、仏教については全くの無知で、仏教寺院を訪れても、ただ拝観して線香のにおいをかぐだけではいかにもなさけない、それでは仏教そのものを零からでも本格的に学んでみようという気になってきたのです。

そこで、先ず仏教系の「大正大学」で、次いで仏教専門の塾のような「東方学院」で、さらには母校の「慶應義塾大学」で、これまで合計で九年間も仏教を中心に勉強し続けることになってしまったのです。そもそも勉強嫌いの私が仏教の尽きせぬ魅力のためでしょうか、勉強好きに変身してしまいました。

それでは、順を追って私の勉強遍歴を述べさせていただきますと思います。

1) 大正大学

仏教に的を絞りましたので、東京での仏教系大学を探しますと、大正大学、駒澤大学そして立正大学などがあります。駒澤大学は禅宗の曹洞宗の、また立正大学は日蓮宗の系統で一宗一派によって設立されていますが、私のごとく幅広く仏教を勉強したいものには大正大学のように三宗四派によって設立されているところが仏教全体を把握するのには良いのではと考えました。大正大学は天台宗、真言宗の智山派と豊山派、そして浄土宗によって設立されています。

さて、ここで問題は学士入学の道を選ぶか、一年次からつまり教養課程から入学するかです。私の場合は、とにかく仏教については全くかじったこともありませんでしたので、思い切って一年から学ぶことにチャレンジすることになりました。しかし思いがけない問題がありまして、つまり入学願書に高等学校の成績証明書が必要であったことです。その時点で高等学校を卒業してすでに四十数年も経っており、果たして当

時の成績表がまだ保存されているかでした。卒業以来門をくぐったことのない高校に行きまして、窓口でその旨告げますと、そのような事例はないらしく、大分待たされましたがまだしっかりと保存されていることがわかり、無事成績証明書を入手することができました。しかしその成績証明書を見て、あらためて私の成績の悪さに愕然とし、また私の勉強嫌いだったことを確認させられた次第でした。

大正大学では仏教を専門に勉強しようということですから、(人間学部) 仏教学科に願書を提出し入学試験を受けることになりました。入学試験会場では、こちらへどうぞと案内されましたら親の控え室だったりして戸惑ったこともありましたが、無事合格、十代の若い方々と一緒に勉強を始めることとなりました。2000年四月のことです。

仏教の勉強では、原始仏教や上座仏教(小乗仏教)など日本仏教とは大きく異なっていたいわば本来の仏教を学ぶことができ、仏教の幅広い認識を深めることができました。また教養課程からですから、臨床心理学とか社会福祉学等これまで縁のなかった分野についても学ぶことができたのは大きな収穫でした。新鮮な感覚で勉強を続けるうちに、勉強嫌いの私がだんだんと勉強好きに変わってきまして、成績優秀で奨学金を頂戴したり、遂には卒業式では学長賞をいただき、年寄で壇上に立つのはいささか気恥ずかしくも思いましたが、総代として謝辞を述べるなどの光栄にも浴しました。

因みに、私の卒業論文は「現代中国の仏教―現状と展望」と題して、共産党支配下での仏教について、海南島にある巨大な仏教テーマパークの中心にある南山寺という寺を現代中国の仏教寺院の典型例として取り上げ、フィールドワークによって現状を分析した将来を展望しました。中国は1980年代からの改革開放政策の伸展で仏教は大きく復活を遂げてきており、非常に興味深い研究対象です。

卒業後はどうするかということで、大学院への進学も考えましたが、大正大学の場合、大学

院は宗学といって、天台学・真言学・浄土学の如く各宗派の僧侶の道に進む方々に適した課程が中心でして、私のように僧侶にはならないものにとっては一寸向いていないような感じを受けましたので、代わりに「東方学院」で引き続き仏教を学ぶこととしました。

2) 東方学院

東方学院は、世界的なインド哲学者・仏教学者として著名で、文化勲章も受章された（故）中村元先生が創設された学校で、御茶ノ水の神田明神の近くに 있습니다。入学試験はなく仏教を学びたい人は誰でも入学できますし、講義での試験やレポートもありませんので気楽に学べます。

授業料も安く、また初心者向けの講座もありますので、仏教に興味のある方にはお勧めです。ただ、学校というよりも寺小屋といった感じの教室で、スマートさはありません。先生方はいろいろな大学の名誉教授の方々も多く実に立派な陣容です。

また生徒は、高齢者が中心で、最高齢は90歳くらいの方もおられて、若い人が尻込みするくらい教室は老人パワーで満ちています。教える側も学ぶ側も老人が中心です。講義の内容はいろいろありますが、中村元先生の創設ですから原始仏教が原点にあることが特色でしょう。関西地区や中部地区にも講座はありますので、ご興味をお持ちの方は、東方学院のホームページ（講義一覧・地域別）をご覧になられてはと思います。

さて、私はこの東方学院で2004年四月から二年間勉強しまして、大正大学での四年間と合わせて、合計六年にもなりました。この辺で、勉強はそろそろ打ち切りにしようと思い始めたのですが、この六年間は仏教専門の学校で学んできましたので、つまり仏教を内側からのみ見続けていたということに気がついたのです。

なにしろ私のように僧侶ではない立場で勉強するとなると、やはり仏教をより客観的に外側から勉強する必要もあると思い、そこであれこれ考えた末に、私の母校である慶應義塾大学で学ぶことに挑戦することとしました。

すっかり勉強好きに変身してしまい勉強したい気持ちが止らなくなってしまったのです。

3) 慶應義塾大学

慶應義塾大学は私の母校で、1961年経済学部の卒業ですが、この当時取得した単位が専攻する分野が異なっても通用するということもわかり、今度は学士入学を目指すことにしました。慶応には仏教関係の分野はありませんので、文学部の東洋史を選びました。入学試験は無事合格、2006年4月から再び若い学生さんたちと一緒に勉強が始まりました。大正大学でもそうでしたが、最近の若い学生さんは、近年の教育のおかげでしょうか、年寄に対しても差別や区別の感覚がなく、気持ちよく一緒に勉強を楽しむことができました。

さて、ところが三年次の春学期の終わりの頃になりましたら、担当の先生から、学部は三年次で切り上げ大学院修士課程の方へ移ってはどうかとの打診を受けたのです。大学院に入るのは次の年の四月からですが、入学試験は半年前の九月にあるので受験するようにということで、そもそも大学院の入試など全く経験もありませんし、正に未知への挑戦となりました。中国史と英語の筆記試験と口頭試問でしたが、なにしろ勉強好きに変身していますので、受験勉強に勤しんだ結果、無事合格できましたが、正直少々疲れしました。

大学院は学部と違って自主的な研究が中心となり時間にも若干余裕が出てきますので、たしかに落ち着いて勉強に集中することができました。担当の先生が華僑・華人の研究を専門とされていたこと、また私自身仕事を通じてですが多くの華僑・華人との長いお付き合いがありましたので、私の基本研究課題は東南アジアにおける華僑・華人の仏教に設定しました。当初は正に東南アジア全体をカバーするべく研究を始めたのですが、大学院では範囲は出きるだけ狭くして深く掘り下げるべしとのアドバイスをいただき、マレー半島の華僑・華人の仏教としましたが、最終的にはさらに絞り込んで「シンガポールにおける華僑・華人の仏教」として論文作成に取り組みました。シンガポールやマレーシアには何回も足を運びフィールドワークを重ね、また新たな友人も多くでき、研究を楽しむことができました。修士論文はなんとか完成し、修士課程を修了、2009年三月、修士の学位記をいただくことができました。

勉強好きに変身した私もさすがに九年間の学生生活で勉強は堪能しましたので、ひとまず学生として勉強するのは終了としました。しかし、勘を絶やさない程度に勉強は必要と感じ、ご推薦を得て、東アジア仏教研究会という学会に所属して研究は続けてゆくことにしました。また、中国及び中国人の仏教が研究課題であることから、遅ればせながら中国語の勉強もがんばっております。

OB会などでは、やはりいろいろな方面で勉強されておられる多くの方々にお目にかかり、同好の士ありと嬉しく感じますが、ボケ防止、健康維持にも勉強は効果的な手段の一つとされています。皆さんに“学問のすすめ”を申し上げる次第です。

以上。



シンガポール最大の仏教寺院、光明山普覚禪寺



インドのブッダ・ガヤー、釈尊成道の地



中国海南島、南山寺、鑑真和上漂着の地

故都築基夫さんを偲んで

窪 田 厚 三



都築基夫先輩が本年5月6日、75歳でご逝去されたとの訃報に接し謹んでご冥福を祈ります。

都築さんはニチメンに入社以来専ら鉄道車両の輸出の商いを担当されて1960年代の前半にアフリカのモザンビークに東急車輛の機関車を輸出したのを皮切りに、アフリカの南ア、ザンビア、マラウイ等の南部アフリカ市場を開拓されました。

その後は、イラン、インド、中国、ソ連等でも実績を上げ、日本の鉄道車両輸出業界の中でニチメンの存在を大いに誇示された事で有名です。

小職が1970年にニチメンに入社した時の直属の上司で、新入社員で何も分からない小職に懇切丁寧に鉄道車両の輸出の商いについてご指導をして頂きました。

都築さんは何時もニコニコで大らかな性格、細かいことは無頓着、多少の失敗、間違いには寛大で、同氏の下で働けるのを幸せに感じました。大変お世話になったことを思い出し、改めて感謝する次第です。

都築さんの大人ぶりを示すエピソードとして、

会社帰りに一杯やって、その後他人の靴を履いて帰宅し、翌朝奥さんに指摘されるまで、そのことに気付かなかった。

部内のゴルフコンペで早朝列車に乗ってゴルフ場に向かう途中、同席していた人が都築さんの足元を見たら、右足は茶色の革靴、左はデザインの異なる黒い靴を履いておられ、“都築さんどうしたんですか？”との問いに“今言われて気が付きました。イヤ～朝暗い中、玄関で明かりも点けずに出てきたものだから、ワッハハハ～参ったな！”

都築さんがニチメンを退社された後、10年間以上も追いかけていた北京地下鉄向け車両商いが漸く契約、その後も当時の関係メーカーは中国向けに大量受注を継続しています。ニチメンが日商岩井と合併した当時、鉄道車両を担当していた若い人たちは、鉄道車両メーカーに転職。

昨今の脱炭素エネルギー政策で鉄道が見直されている追い風をうけて、彼等都築部隊は世界各国の鉄道ビジネスで成果を上げています。

都築さんがニチメン時代に情熱を傾けた鉄道車両の商いは形は変わっても後の世代に引き継がれているのです。

都築さんどうぞ安らかに眠りください。合掌



医療コーディネーター 「楽患ナース」のご紹介

HP担当世話人 栗 田 久 彌

HPで紹介している全く新しいタイプの医療サービスを会報で改めて紹介するものです。

会員の皆さんご自身もご家族の方々の皆さんも、日常生活の中での最大の関心事の一つに「健康」がある事を待ちません。年齢相応の健康が維持されている間はそれ程感じられないのが常ですが、いざ病を得ると思いもよらぬ心配や不安が生じます。そんな心配や不安の解決にコーディネーターとして相談に乗り又助言をされて居られる「楽患ナース」の岩本ゆり先生に、医療コーディネーターとはどのような内容の仕事をされておられるのか？ 実例を挙げて説明して頂きました。是非ご一読下さい。



楽患ナース株式会社 取締役
医療コーディネーター・看護師・助産師
岩本 ゆり

癌患者の半数以上が医師の説明や治療方針に納得がいけないという調査結果があります。

この調査の詳細なデータ説明は省略しますが、医師が提示した治療方針に対する納得が、必ずしも十分でない中で、治療が進んでいくこと、あるいは、より良い自分にあった治療があるのではないか？ という思いを持ちながらも、情報の非対称性の中で、どうしようもない、自分で選ぶことのできない環境にある患者さん、或いは、ご家族のフラストレーションを示すデータと読むこともできます。

私たち医療コーディネーターは、患者さん、或いはご家族と接する中で、不安や悩みの元を明らかにする手伝いをし、治療方法や病院・医師の情報提供などを通じて、納得のいく医療の選択を支援する活動をしています。病院の職員ではない中立的な立場の看護師が相談に乗ること、これが大きな特徴です。

それでは、医療コーディネーターはどのような時にお力になれるのか、その実例をご紹介します。

Aさんは、健康診断で肺癌を疑われました。かつて煙草を吸っていたため、癌は他人事ではありませんでした。そこで、肺癌治療で高名なB病院を尋ねました。B病院ではすぐに痰の検査やCTなどを行い、初期の肺癌であることをAさんに告げました。B病院は、初期であること、60歳を超えていることを配慮して、Aさんに胸腔鏡を使った肺癌切除術を薦めました。胸腔鏡であれば、手術後の傷の痛みも軽くすむので身体的に楽であること、B病院は手術数も多いので心配ないとのことでした。しかしAさんはこうした一連の説明を聞いて病院へ不信感を抱きました。ただ、その不信がどこからくるのか自分でも良く分かりません。

何となく、この病院でこのまま薦められる手術を受けて良いのだろうか、と悩むようになりました。

そんなAさんを見て、息子がセカンドオピニオンを検討してはどうかと言い出しました。大きな治療を受ける前に別の医師の診断を仰ぐ方が安心だ、という話のようです。しかし、B病院を紹介してくれたのは、Aさんの近所の馴染みの掛かり付け医です。今でも血圧が高い時や、風邪を引いた時などに御世話になる

病院です。高名な病院を紹介してもらったにも関わらず、セカンドオピニオンを受けたいとB病院に言えば、掛かり付け医に迷惑がかかるかもしれません。そもそも、どこへセカンドオピニオンを受けに行けば良いのかも分かりません。かと言って、このまま手術を受けるのも不安です。どうしたら良いのか決めかねているところへ、医療コーディネーターサービスを受けてみてはどうか、と今度は娘が言い出しました。

Aさんは、専門家を交えて自宅で子どもたちと一緒にゆっくりと今後のことを話し合う機会があれば、例えば問題が解決しなくても一歩先に進むきっかけになるかもしれないと思い、面談を受けることに決めました。

面談の日、自宅で娘と息子、妻とAさん、そして医療コーディネーターの5人で話し合いました。医療コーディネーターはAさんに、これまで医師から話された病状の説明や検査の結果説明をなるべく正確に思い出して教えて欲しいと言いました。Aさんはこれまでのやり取りを記憶から辿って話しだしました。医療コーディネーターから色々と質問をされ、忘れていたことを思い出す部分もありました。医師には聞きづらかった検査の意味や病気のことなど、資料を見ながら説明してもらいました。また、病院の常識、特殊な事情なども聞くことができ、これまでの外来受診での出来事をかなり詳しく理解することができました。

こうしてゆっくりとこれまでのことを振り返っていく中で、Aさんは徐々に自分が何に対して不信感を感じていたのかを自覚するようになりました。それは、特別に教授の外来診察を受けた日のことでした。CTを見ながら教授が、「まだ小さいから癌ではないかもしれない」と呟いたのです。Aさんは、癌でなかったらどんなに良いだろう、と期待して次の言葉を待っていたのですが、その後教授は淡々と、手術日をすぐに決めて準備を進めていきました。手術の内容について詳しい説明もないままでした。その後の外来でも、詳しい検査は行われず、手術の説明も入院してから行うと言われたことが重なって、とうとう、この病院では手術を受けたくない、と思うようになったのでした。

そのことを皆に伝え、医療コーディネーターは、肺癌の診断がどのようになされるのか説明を始めました。Aさんはその話を聞きながら、なぜ教授があのような一言を言うに至ったのかを理解しました。

しかし、そうであればなぜ教授は言うだけ言って説明をしないのか、と腹も立ちました。それと同時に気になっていることをきちんと聞いておくべきだったと反省もしました。

「それでは、これから別の病院でセカンドオピニオンを受け、そこで詳しい説明を受ければ良いのではないか」とAさんは言いました。すると医療コーディネーターは、「セカンドオピニオンを受けるためには、ファーストオピニオン、つまり、今の主治医が何を考え、どのような思いで診断し、手術法を決定したのかが理解出来ていないと上手くいかない」と答えました。セカンドオピニオン先の医師は、ファーストオピニオンに対する意見を述べる医師であって、別の病院の医師の胸のうちを推測して話すということはしないもののだとも言われました。またAさんは、肺癌のガイドラインというものが存在し、それによると初期の癌でも標準的な治療法は開胸手術であること、胸腔鏡手術は標準治療ではないことを初めて知りました。

熟考の末、セカンドオピニオン先の病院は、胸腔鏡手術ではなく開胸手術を薦めている病院を訪れることにしました。B病院とは違う視点を持った病院へ話を聞きに行くことで、2つの治療法それぞれのメリットとデメリットを知り、どちらの治療法を選ぶか、Aさんが判断する際に参考になるでしょう。

面談の結論として、Aさんの取るべき行動は2つあるとまとまりました。一つは、「そもそも自分が本当に癌で手術が必要かどうかを確認したい」ため、次回受診の際にB病院の医師にそのことを質問すること、二つ目は、「他の病院でセカンドオピニオンを受ける準備もしたい」とB病院に伝えることです。この2つを行うことで、納得して治療を受けることが出来そうだとAさんに笑顔が浮かびました。

医療コーディネーターのやり甲斐は、どこに相談して良いのか、困り、不安になっている方が笑顔になることです。少しでも一歩先に行くお手伝いが出来れば嬉しく思います。面談や電話での相談は有料となりますが、医療コーディネーターがあなたのお役に立てるかどうかわかりませんが、お問い合わせ、お申込みは無料です。

ご連絡お待ちしております。

☆ お問い合わせ用 電話番号：050－1256－8627

人事総務サービス部 青木聡弥部長 電話 03-5520-4088 FAX 03-5520-2390

[illegible][illegible]

【編集後記】

今年は東西社友会にとって画期的な年となった。

それは、7月の東京社友会総会に大阪より田淵弘通会長が、9月の大阪社友会総会には東京から丸山修作会長が、夫々初めて参加され東西社友会交流の嚆矢となったことである。

これによって、將にニチメンALL-IN-ONE社友会が具現したことになる。

東は東、西は西ではなく、今後ますます交流を深め、お互いに、よりCOHESIVEなOB会として育てていきたいもの。

作家・故遠藤周作は、“人生の最大の喜びは邂逅にあり”と述べている。

社友会が、その邂逅の場であることは間違いない。

夏の総会で、正月の賀詞交歓会で、懐かしい方々との再会は昔を偲ぶ縁となり楽しいことである。

『恍惚の人』という言葉が流行ったのは、1972年の女流作家・有吉佐和子の著書の題名からである。頼山陽の史書『日本外史』が出典。“老いて病み恍惚として人を識らず”とある。

10月の機械のOB会“機友会”では、全員で“惚けない小唄”を歌った。“恍惚の人”は、出来れば避けて通りたいもの。われら等しく望むところである。

本号掲載の岩下さんのエッセイ；“ウイーン我が夢の街”を是非ご一読下さい。

ズィーチンスキーの名曲の意味を今まで知らずにいた。

“千の風になって”と相通じるものがある。

本号には、その他、大山さん、久澤さんの長大エッセイも読み応えがあります。

(長谷川 洋)

ニチメン東京社友会

〒107-8655 東京都港区赤坂2-14-7
双日(株)内 東館17F

発行人	；倉又 則夫	代表世話人
編集責任者	；長谷川 洋	世話人
アドバイザー・スタッフ	；高木 亨一	世話人
	倉持 次雄	世話人
印刷所	；(有) 関 内	印刷